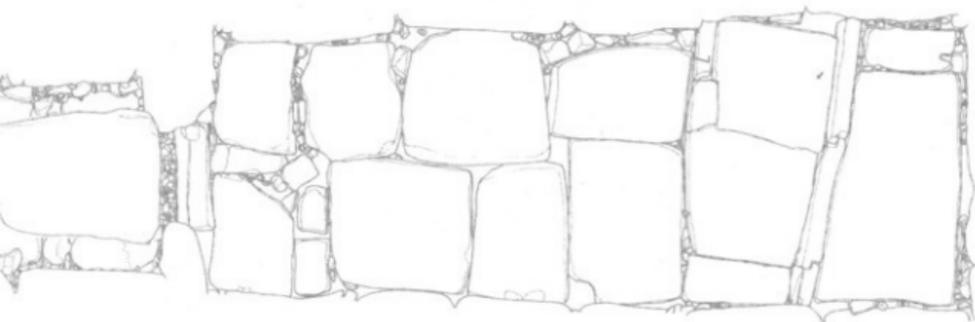


文化財調査報告書

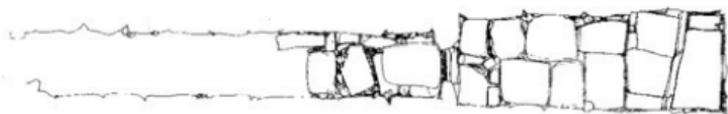


前橋市教育委員会

平成4年度

第 23 集

文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成4年度

第 23 集

序

前橋の文化財保護行政をその始まりの頃から振り返ってみますと、隔世の感があります。一人の担当を置くところから始めて、埋蔵文化財発掘調査の急増により徐々に職員数が増加し、予算も増加してきました。これは、文化財保護が必要とされた状況の中で、必要とする事業が増加してきたためです。

文化財の利用、活用がいわゆるようになり、発掘だけでなく史跡の整備、資料館整備が進められるようになって、事業の持つ意味が大きくなってきています。

これは、文化財保護の意義を市民の皆様にも広く認識していただける大事な事業であると思います。

大室公園史跡整備では、前二子古墳の範囲確認調査が行われ、石敷の石室の検出など貴重な成果を得ることができました。整備委員会においても、古墳整備、民家変遷、資料館部会がそれぞれの計画の中で活動しました。

歴史散歩道整備については、案内板の設置、散歩道地区増刷など利用増進に向けた事業が行われました。その中核となる総社資料館についても基本構想を策定し、基本設計を作成しました。

元総社、総社地区での散歩道利用促進の秋元歴史まつりも第3回となり、市制100周年記念イベントとして昨年をはるかに上回る参加者を集めることができました。

普及事業としては、郷土芸能大会、文化財展、文化財普及講座、史跡めぐり講師派遣等の事業に加え、昨年より継続で県の文化財愛護モデル地区事業の指定を受け、史跡文化財のガイド養成講座を実施しました。

調査事業では、本書に記載の文化財調査委員の調査に加え、専門家調査、建造物調査を行いました。

埋蔵文化財発掘調査では、開発に伴う試掘調査、遺跡の発掘調査と芳賀岡地遺跡の報告書作成作業があげられます。元総社明神遺跡は第11次、内堀遺跡は第6次、横俣遺跡は第5次調査などの調査を実施し、貴重な遺跡の記録保存を行うことができました。

最後に、こういった諸事業にご指導、ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げますと共に、この文化財調査報告書第23集が文化財保護の一層の推進のために活用されることを祈念し、結びといたします。

平成5年12月

前橋市教育委員会
教育長 岡本信正

目次

序

目次及び例言

I	文化財調査委員による調査	1
	慈照院、無量寿寺文化財調査	1
	石造物一覧表	2
II	文化財調査	5
	光厳寺籍調査	5
	日輪寺建造物調査	7
III	新指定物件紹介	11
IV	文化財保護事業	17
1、	管理運営事業	17
(1)	国有文化財管理	17
(2)	国・県・市指定文化財管理	17
(3)	史跡の除草・清掃作業	17
(4)	文化財パトロール	17
(5)	女堀追加指定および土地買上げ	18
2、	整備事業	19
(1)	総社歴史散歩道整備事業	19
(2)	龍海院酒井家墓地保存整備事業	19
(3)	八幡山古墳修復工事	19
(4)	文化財補修工事	20
(5)	標柱、説明板、案内板設置工事	20
(6)	史跡境界杭設置工事	20
3、	普及事業	20
(1)	第18回前橋市文化財展	20
(2)	文化財めぐりパンフレット増刷	20
(3)	前二子古墳現地説明会	20
(4)	教材開発事業	21
(5)	第20回前橋市郷土芸能人会	21
(6)	文化財愛護ポスター作成	21
(7)	第11回文化財普及講座	21
(8)	まえばし文化財地図作成	22
(9)	史跡・文化財めぐり	22
(10)	各種講座への講師派遣	22
(11)	文化財防火デー	22
(12)	文化財資料の貸し出し	22
(13)	文化財保存団体功成	22
(14)	その他	22
4、	調査事業	23
	諏訪神社馬場翁の碑文調査	23
	戦前の遺跡写真	23
5、	埋蔵文化財発掘調査事業	25
	本年度の発掘を振り返って	25
(1)	内堀遺跡群V(西大室町)	28
(2)	元総社明神遺跡XI(元総社町)	28
(3)	中原遺跡群I(上増田町)	29
(4)	中原遺跡群II(上増田町)	29
(5)	大屋敷遺跡I(総社町)	30
(6)	前二子古墳(西大室町)	30
(7)	横依遺跡群VI(西大室町)	31
(8)	西久保遺跡(総社町)	31
(9)	引切塚II遺跡(青柳町)	32
(10)	石岡女堀遺跡(石岡町)	32
(11)	山王院寺IX遺跡(総社町)	33
(12)	人室城遺跡(西人室町)	33
(13)	芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業	34
(14)	市内遺跡	34
6、	大空公園史跡整備事業	35
(1)	大空公園史跡整備委員会	35
(2)	古墳整備部会	35
(3)	民家変遷部会	36
(4)	資料館部会	36
7、	上泉郷歳保存修理	37

あとがき

例言

1、本報告書は、前橋市文化財調査委員の文化財調査と前橋市教育委員会管理部文化財保護課で行った、平成4年度の諸事業の概要をまとめたものである。

2、本書の企画と編集は文化財保護課で行い、市民の方にわかりやすい表現、構成を心がけた。

I 文化財調査委員による調査

文化財調査委員による調査は、平成4年度、二之宮町の慈照院と無量寿寺の調査を行った。慈照院と無量寿寺では所蔵の什物の調査と境内の石造物の調査を行った。調査結果は以下の通りである。

● 慈照院文化財調査

- 名称 大悲山東福寺慈照院
- 所在 前橋市二之宮町1811
- 住職 村中 祐生
- 宗派 天台宗

二之宮町のほぼ中央で二之宮小学校の西に所在する寺で、通称慈照院と呼ばれ、公田町乗明院の末寺である。

寺伝によると嘉禄二年(1226)源祐法印開基とある。途中衰退した期間があったが四十世尊栄法印により復興し、東叡山の末寺となる。本堂、観音堂、庫裡、門などを明治十七年十二月焼失し、翌十八年二宮赤城神社境内にあった元文五年(1740)建立の千手堂を移築して本堂とした。

元來二宮赤城神社の別当寺であり、本尊千手観音は赤城山大沼神の本地仏で、像高93cmの木彫坐像である。千手堂に安置されていたもので、前橋市指定重要文化財になっている。

境内に、三重塔があったことが、礎石の銘文からわかる。文明十八年(1486)の年号がはいつている。

焼失を免れた什物としては、涅槃図、大般若経がある。涅槃図は宝暦九年(1759)京都曇願寺通富小路の彦兵衛が描いたものである。大般若経六百巻は延宝年間(1673~1680)の鉄版版といわれるもので、寄進者は、赤堀や玉村の地名があり、寛政八年(1796)の箱蓋銘文から、この少し前に収められたものと思われる。

● 無量寿寺調査

- 名称 筑波山來迎院無量寿寺
- 所在 前橋市二之宮町甲764
- 住職 佐竹 忠夫
- 宗派 真言宗(本山長谷寺)

二之宮町のほぼ中央、二宮赤城神社の東に所在する寺である。

寺伝によれば、明応年間(1492~1501)陸舜上人の開基という。足利小侯鎌足寺の末寺であった。天和年中(1615~1624)に江戸護持院の隆光僧正が転住し、前橋藩主酒井忠清の叔父親光公が弟子となり、憲光法師と号し、その母が筑波山を信仰したため、境内に筑波山を築き筑波権現を勧請した。山号をそれまでの修密山から筑波山に改め、護持院の末寺となる。護持院が護国寺に合併したため、護国寺の末寺となる。

文化三年火災により焼失し、天保十二年堂宇を再建する。明治四十二年、荒口の観世音寺を合併する。

筑波山は天和年間に築いたもので、山頂には筑波両神を安置し、その左右に富士御嶽の両社を勧請し、南の中央に不動尊、中央には子育て地藏尊を安置し、四方には百庚申を置く。

この山については、上武国道工事に伴う発掘調査で、古墳ではないとの結論がでているが、その主体部には古墳があったかもしれないという疑問が残る。

客仏の地藏菩薩と十一面観音は、共に護持院から移されたものといわれる。いずれも前橋市指定重要文化財になっている。

二之宮町 慈照院境内 石造物一覽表

1	五輪塔	128	52	52	
2	地藏菩薩	104	28	17	
3	百八十八番 供養塔	92	74	42	百八十八番供養塔 天明元年辛丑年 十月 吉祥日 石川新右衛門 同苗平右衛門
4	庚申塔	92	74	21	庚申塔 安永七戊戌天 十月吉旦 中島講中
5	庚申塔	94	83	23	明和二天 亥 (ウーン) 十一月吉日
6	如意輪觀音	85	25	18	諸法從本來常自寂滅相佛子行道已來世得作 佛觀音妙智力能救世間苦願主内田源太夫書
7	庚申塔	94	26	15	安永五丙申 十一月吉日 施主 並木氏
8	庚申塔	105	64	52	寛政十二庚申年 庚申塔 十一月吉祥日 講中
9	庚申塔	131	32	28	亥 (ウーン) 明和四年丁亥歲五月大吉旦 青面金剛 二宮村白井講中
10	觀世音菩薩	80	48	21	寛政二庚天 十一月吉祥日
11	百番供養塔	101	30	24	安永八己亥歲 仲冬吉日
12	如意輪觀音	95	30	25	内田□□
13	六地藏石幢	110	29	27	安永二癸巳 十一月吉辰 講中
14	念仏供養塔	73	40	38	念佛供養塔
15	五輪塔	87	32	32	
16	馬頭觀世音	67	27		明治廿七年十月十八日 岩上菊次郎 ほかに文字の馬頭が5基、像の馬頭が6基 文字の庚申が1基、五輪塔が13基所在 馬頭の年号は、享和二年、文化十五年 天明六年
17	庚申塔	130	60		勢田郡二宮村慈(照)院 氏名五名 元禄七甲戌天十月廿七日
18	石 仏	75	48	27	中世のもの
19	馬頭觀世音	158	45	30	天保十二辛丑歲在三月吉辰 馬頭觀世音 保食姫命 當郊願主 氏名四十二名
20	名号塔	88	28	24	南無阿弥陀佛 當千手堂宇建立 願主恙蒼 稚 大昌徳
21	庚申塔	132	126		庚申 天保十己亥載建之 氏名十五名
22	二十三夜塔	80	38	27	二十三夜塔
23	經典読誦塔	127	43	43	奉読誦大乘妙典三千部二世安樂所 経日 諸法從本來 常自寂滅相 佛子行道已 來世得作佛
24	地藏菩薩	62	30	21	
25	地藏菩薩		37	34	
26	地藏菩薩		44	46	
27	六地藏石幢	58	34	16	

二之宮町無量寿寺境内石造物一覽表

1	大黒天	108	41		元治元年歲次甲子十一月甲子二日建立 將永東 西船講中 大黒天 松齋雄書
2	地藏菩薩	90	32	21	享保五庚子天五月吉日
3	馬頭觀音	131	34	28	天明三癸卯歲 十月十八日
4	六地藏石幢	164			元禄九丙子年 願主廿一人 奉造立念仏 供養二世安樂杖 十一月十六日 □光林 屋□ 是より北 大胡通 是より西 前橋通
5	虚空藏	143	40	25	奉造立大毘盧遮那尊像一軀石占趣者為 光明真言講供養仍而除暗遇明來坐佛果 苗種也 享保十二丁未歲十一月日
6	地藏菩薩	164	32	25	
7	美師如來	86	37	30	
8	庚申塔	77	40		正徳 歲十一月十六日 右二□ 左□通 (カ)
9	庚申塔	66	46	21	庚申塔 北大こ 東さんたい道 みなみ いせさき道 西□□
10	庚申塔	58	40	25	天保十年季 庚申塔 三月穀旦
11	庚申塔	44	20	16	庚申
12	供養塔	62	52	17	寛延三庚午天 七月七日
13	庚申塔	133	70	23	庚申 文政五年 癸壬春三月 □□□□□
14	五輪塔	99	70	70	
15	石仏	48	34	21	
16	庚申塔	150	38	34	庚申
17	石仏	64	33	38	奉資先祖菩提 天明五 天十一月吉日
18	石仏	31	28	16	
19	石仏	51	25	19	明和三戌天 十一月吉日
20	如意輪觀音	83	30	21	(台座は別物)
21	庚申塔	37	15	13	百庚申
22	石仏	83	30	20	文化元年甲子年十一月吉日
23	六地藏	75	26	18	延享元甲子年十一月吉日 高さは73から77
24	地藏菩薩	67	26	21	元禄十一未天十二月吉日 施主□□□□
25	庚申塔	70	40	13	庚申 三股大造
26	庚申塔	43	24	20	庚申
27	庚申塔	43	25	11	庚申
28	庚申塔	62	28	14	庚申 石川平太夫 岡吉藏
29	石殿	88	45	46	寛永 戊 十一月十七日 (并天)
30	石祠	20	33	52	明治九□ 正月吉日 花園實栄 世話人中
31	石祠	26	23	19	
32	石祠	16	32	48	
33	石祠	30	47	55	明治廿九年九月吉日建之 世話人十一名
34	石祠	32	30	27	発起人 十六年
35	石祠	23	36	42	
36	石祠	18	55	52	
37	石仏	83	35	20	
37	御嶽	208	34	24	御嶽座王大権現
38	庚申塔	94	84	22	墓(ウーン)
39	庚申塔	142	54	12	庚申塔
40	庚申塔	150	43		庚申塔
41	不動明王	96	23		



筑波山の石祠（無量寿寺）



富士山の石祠（無量寿寺）



百八十八番供養塔（慈照院）



石仏（中世のもの）（慈照院）

II 文化財調査

● 光厳寺幅調査

白織子地麻の葉枝垂桜模様

江戸時代・18世紀 2 旒^{ひょう}

(その1)

三坪の幅身(ばんしん)の上部に三角形の番頭(ばんとう)を配し、下部に四本の幅足(ばんそく)を付け、坪界(つばかい)の左右から総計9本の幅手(ばんしゅ)を出す。また幅頭中央から表裏2本の舌(ぜつ)、幅頭の途中からは左右合わせて3本の手(て)を出す。

幅身・幅頭・幅足の表には白織子地に金摺箔で麻の葉模様を地文風に表し、刺繍(平繡・纏い繡・割繡)で枝垂桜模様を表した縫箔裂、これらの裏や坪界には紅平絹が用いられている。

幅頭の上部山形の部分は、2枚合わせの木製の芯を外から前記の縫箔裂で包み、幅身と接する側で裂を2枚の板の間に入れ込み、同時に仕立てられた幅身部分と表裏2枚の舌も、これらの間に挟み込み、金銅製金具で両面から押さえ固定する。金具は、頂部では五葉木瓜紋と唐草文および菊文を毛彫りした金銅製金具、左右両端では唐草文を毛彫りした金銅製金具が用いられ、表裏から幅頭部を挟むように鎮止める。またこれら中間には、同じく金銅製の菊花形飾り金具を表側にのみ付ける。

さらに菊花形金具の下方、幅身縁と交差する部分の外側には、包み込んださを一部切り開いて幅頭の手(て)を挟み込む。

幅身は、和紙の芯を挟んで表に縫箔裂、裏に紅平絹を用い、同じ和紙で裏打ちした縫箔裂を表では縁にも用い、裏では坪界に用いる。一方、これも同じ和紙で裏打ちした紅平絹は、それとは逆に表では坪界、裏では縁に用いる。なお、縁や坪界の裏打ちは、紙芯を幾分包むように裂が裏面へ折り返されている。

幅身の仕立て方は、まず紙芯を挟んで表裂と裏裂を配し、次に坪界裂を置き、最後に縁裂でこれらを外側から包むように挟むが、幅足もこの時に幅身最下部の坪界裂の下に挟み込まれる。幅手は、坪界と交差する部分の縁裂を切り開いて差し込み固定する。第2坪目の裏に「秋元伊賀守喬房 御寄進之 当寺七世 亮軟法印代」の墨書がある。

幅手・幅足・舌などはいずれも表に縫箔裂、裏に紅平絹を用いて衿に仕立てられ、裏裂が表に2度折り返されて縁とされている。和紙の芯を入れていないのは、これらがしなやかに動くようにするためであろう。

現状では、幅頭の手左側1本と、幅身第1・2坪の坪界左右の幅手各2枚、第2・3坪の坪界右側の1本が欠失し、さらに幅足も4本ともが下端を欠失しているが、もとは幅頭と幅身の手が各本とも2本づつあり、幅足もさらに長いものであったと考えられる。また幅身の幅が約30センチ、長さが1メートル強、幅足の幅が約9センチ、長さが2メートル30センチ、幅手や舌は幅が約8センチで長さが約40から50センチ、縁は幅約5センチで長さが1メートル強、坪界も幅約5センチで長さ約30センチであることから、完形ならば、表に用いられている縫箔裂も、裏裂として用いられている紅平絹も、ともに通常の能装束1領に使用される生地量の約半分の量に当たる。従って、全く同様に仕立てられているもう1旒(その2)とあわせて、も1領の縫箔(能装束)を引き解いてこれら2旒の幅を作ったと考えるべきであろう。

縫箔裂に見られる刺繍の技法や模様表現の特徴から、もとの縫箔の製作年代は18世紀前半と考えられ、裏裂の墨書と考え合わせて、元文3年(1738)に卒した秋元喬房が、自ら所持していた能装束を存命中に幅に仕立てて当寺に寄進したか、もしくは喬房の死後、縁のものがこれを行った可能性が高い。

全長234.0センチ、全幅60.0センチ。

(その2)

幡頭の手の左側2本、裏側の舌1本、第2・3坪の境の幡手左側2本と右側1本、幡足すべてを欠失するが、全体の形状や構造・仕立て、使用されている素材や加飾・墨書銘など、(その1)とに特に変わるところはない。また、長さ130センチ、幅9.2センチと、長さ133.5センチ、幅9.4センチの幡足残欠がこれらとともに伝存しており、そのうちの1本の上部に幡身に縫込まれた痕跡が残っていることから、これらはこの幡から脱落したものと推測される。

ただし、この幡においては幡身の坪の部分の表裂は、第1から第3坪まで1枚の裂が通して使われているのではなく、第1坪に小型の裂が1枚、第2、第3坪にその倍の大きさの裂が通して1枚用いられ、都合2枚で構成されていることが確認できるが、裏や(その1)の幡がこれと同様の仕立てかどうかは、確認できない。

(その1)と1対をなすもので、(その1)とともにもと1領の縫箔であったものから仕立てられている。

全長104.9センチ、全幅60.0センチ。

紅頭文紗地唐草模様幡

江戸時代・18世紀 2歳

(その1)

幡頭と2本の舌、3坪の幡身、各部各2本の幡頭手・幡身手、4本の幡足からなり、形状・仕立て・構造はほとんど前作と共通する。幡身は、表に紅地唐草文頭文紗、裏に納戸色平絹を用い、前作同様、間に和紙(反故紙)の芯を挟んで袷に仕立てる。縁は表裏とも紅地唐草文頭文紗、坪界裂は表は白地石畳模様平絹、裏は白地格子模様平絹を用いるが、これらも前作同様の方法で和紙の裏打ちがなされている。

幡頭の手及び舌・幡手・幡足も、表に紅地唐草

草文頭文紗、裏に納戸色平絹を用い、和紙の芯をを入れずに袷仕立てとする。いずれも裏裂を表に2度折り返して縁としている点は前作と共通する。なおこれらの幡身への取付方も前作と同じである。幡足端には、魚々子地に唐草文を毛彫りした金銅製V字形金具が付けられているが、現在は2個のみ現存。

幡頭は、前作同様、頂部に五葉木瓜紋と唐草文及び菊文を毛彫りした金銅製金具、左右両端に唐草文を毛彫りした金銅製金具、これら中間に、同じく金銅製の菊花形彫り金具を前述の方法で鎮止めするが、これらの金具は前作とは別のものである。また裂使い違いから、幡頭の三角形の下の、舌に隠れる部分では表裂が省略されている。

幡身表の第2坪目には、五葉木瓜紋に切り抜いた白絨緞裂をアップリケし、その周囲を白然糸で縁取る。また幡頭裏側に垂らされる舌の表には、「寛政二庚戌歳五月」の墨書がある。

幡各部の表の用いられている生地は、もと、ひとえの直衣または狩衣、また裏地は熨斗目小袖の表地をそれぞれ引き解いたものと考えられ、直衣や狩衣は大名などの上級武家が礼服として用いたものであり、熨斗目小袖は武家が袴の下に着用した儀礼用の小袖である。従って、これら2歳の幡が藩主所用の衣服を素材として仕立てられたものである可能性は強く、だとすれば、前作の例にならって、墨書の時期に当時の藩主秋元永朝が自らの衣服を幡に仕立てて当寺に寄進したか、もしくはこの年(寛政2年)の2月26日に死去した長男修朝の菩提を弔うため、修朝所用の衣服を幡に仕立ててこれを当寺に寄進したとも考えられる。ただ前作同様、墨書銘に、菩提を弔う云々の記述がない点は疑問が残る。

また幡身の坪界裂は、熨斗目小袖の腰の部分を用いて仕立てられていると考えられるが、表と裏で用裂が異なるのどうしてだろうか。傷み具合の違いから、両者は全く異なる熨斗目小袖からとられていることは明かであり、なんらかの理由で不

足を補ったと考えざるをえない。

全長235.5センチ、全幅59.5センチ。

(その2)

破損状況に若干の相異があるほかは、幅足金具1個を残す点以外、(その1)と異なるところは無い。(その1)と1対のものである。

全長・全幅ともに(その1)に同じ。

納戸平絹地五葉木瓜紋幅

江戸時代・18世紀 2旒

(その1)

形状・仕立て・構造などは前作に同じであるが、金具が模様をわずかに変えるほか、用裂はこれらと異なる。幅頭部と縁の表裏、幅身坪及び幅手・幅足の表には納戸色平絹を用い、表の坪界と幅身坪・幅手・幅足の裏に白平絹を用いる。

幅身縁や幅手の一部に白地に茶色の横縞の部分が見られるが、これは幅に仕立てるために引き解かれたもとの小袖の腰の部分である。また幅身第2・3坪中央と幅足の1本に五葉木瓜紋が見られるが、これもその小袖の紋所である。さらに白平絹は小袖の裏地と考えられ、従ってこの幅は、同じ仕立てになる(その2)とともに、納戸地横縞模様五葉木瓜紋付き熨斗目小袖1領から作られたことは間違いない。紋は(その2)と合わせて合計5つあり、しかも4つは裂の中央に完形で見られ、一方他のひとつは半形が見られるから、前者は胸及び袖の紋所、後者は背中(の紋所)のかたわれであることがわかる。おそらく欠失した幅足の中に残る半分が含まれていたに違いない。

現状では幅手6本と幅足2本を残すのみで、幅頭の手や舌のすべてと他の幅手・幅足を欠失している。

全長146.0センチ 全幅53.5センチ。

(その2)

(その1)と形状以下を同じくする。幅頭の手

2本、舌1本、幅手4本、幅足1本(残欠)を残す以外はいずれも欠失。なお、(その1)あるいは(その2)から脱落した幅足と幅手の一部が現存するが、これらがどちらに属するものかは特定できない。

全長120.0センチ 全幅53.5センチ。

これら2旒の幅には銘文がなく、製作の経緯やもとの小袖の所有者も不明である。しかし紋所から推測して、これらも他の4旒同様、藩主秋元氏の誰かの小袖をその生前もしくは没後に幅に仕立て替えたものと考えらるべきであろう。また製作時期も前者に近い18世紀とするのが妥当かと思われる。

(調査者 東京国立博物館染織室長 長崎 巖)

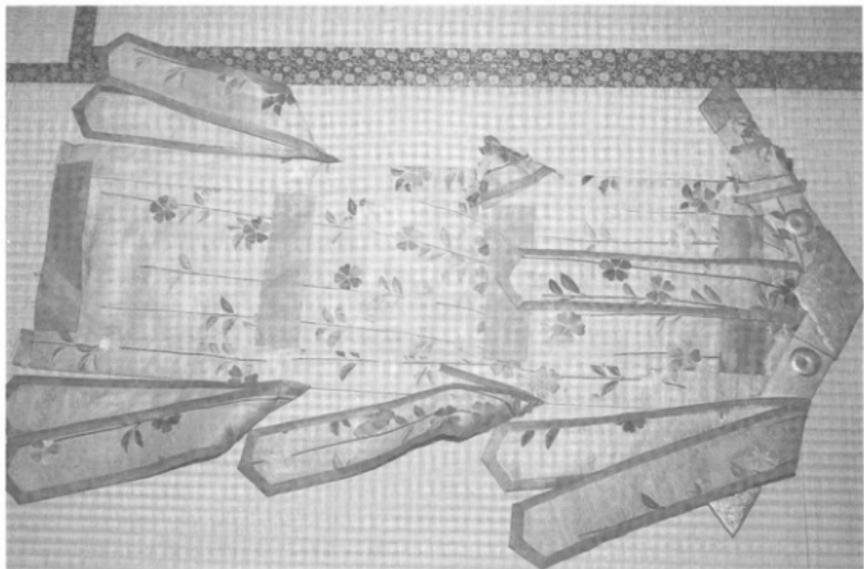
● 日輪寺建造物調査

日輪寺は、前橋市日輪寺町に所在する真言宗豊山派の寺院である。朝天山祈禱院の号は、神龜三年(726)川端村朝日窪の池より一寸八分の間浮壇金の十一面観世音が発見され、弘法大師廻国の際、その像を木像十一面観音の胎内に納め、一六弟子の一人実恵和尚に開山させたのにはじまるといふ。「日輪寺縁起」(安政七年作)によると当時七堂伽藍が建ち並び、寺領四十町歩を賜ったとされる。

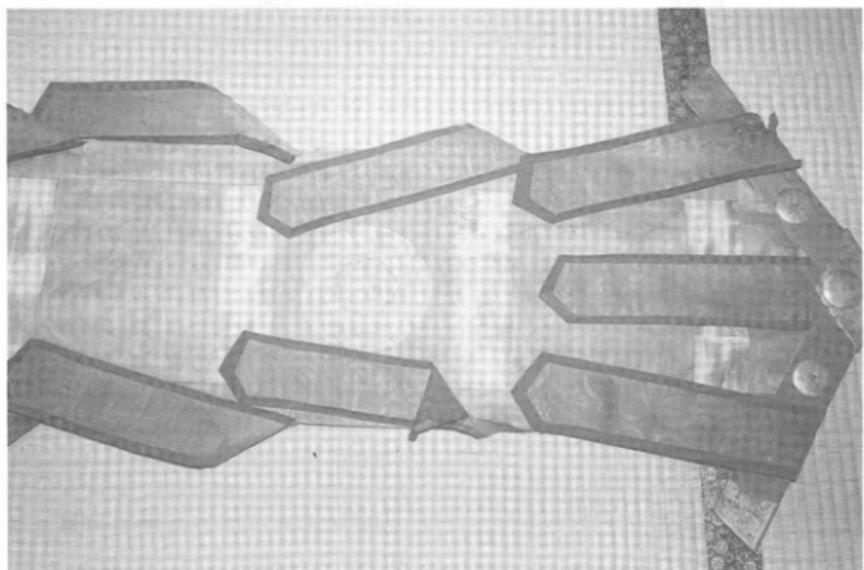
このような伝承は、寺の古さを物語り、寺名が村名となっているのも、創建の古さを示すものである。

しかし、再三の火災や洪水に遭い、古記録の大部分は失われたが、境内取藏庫に安置されている十一面観音像は、平安時代の柱の一本造りの陀彫り彫刻で、県指定重要文化財である。観音堂内の寛永の絵馬は市指定重要文化財である。

建造物調査は、財団法人文化財建造物技術保存協会に委託して実施した。調査対象は山門、観音堂、本堂である。

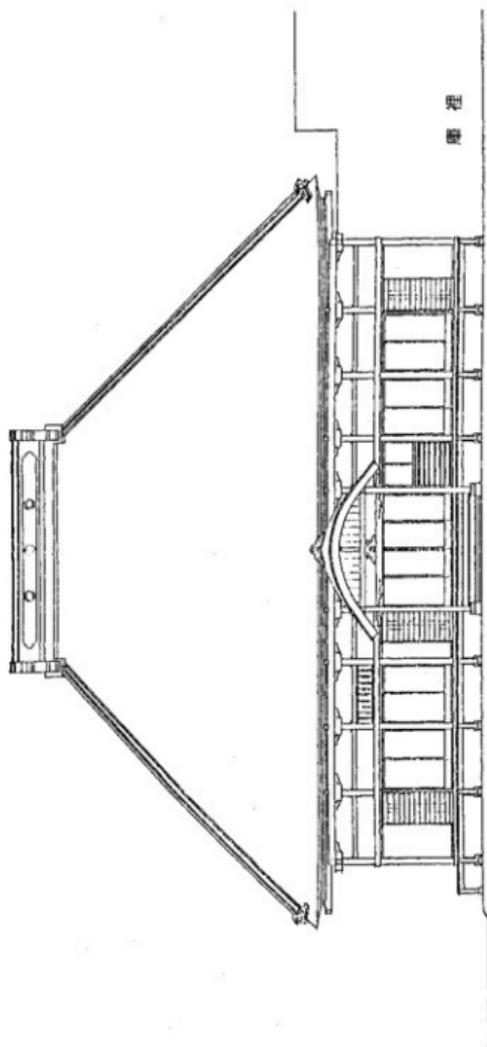


白綿子地麻の葉枝垂桜模様幡

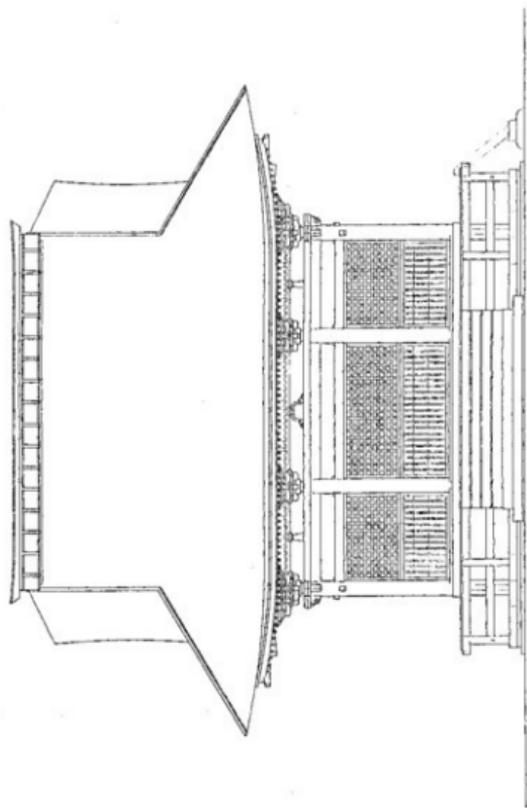


紅頭文紗地鬱葱草模様幡

日蓮寺本堂



日輪市 福和堂



Ⅲ 新指定物件紹介



そうじやしんじやほいでん
総社神社拝殿

- ・区 分 重要文化財
- ・記号番号 重第64号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市元総社町2377
- ・所有者 総社神社
- ・管理者 総社神社
- ・概要

総社神社は、平安時代に上野国内の神社549社を集めてまつた神社である。その後、永祿年間（1560年頃）に兵火を受けて、西北300mの位置から現在地に遷宮されたとの社伝がある。

本殿は、昭和38年に群馬県指定重要文化財に指定されており、昭和59年から61年に保存修理工事を実施した。

拝殿は、文化12年から天保14年（1843）にかけ作った入母屋造りの建物で、大工は元総社の宮大工関谷出雲守である。彫刻は、熊谷の長谷川源四郎である。勾欄の擬宝珠には天保三年九月吉日の

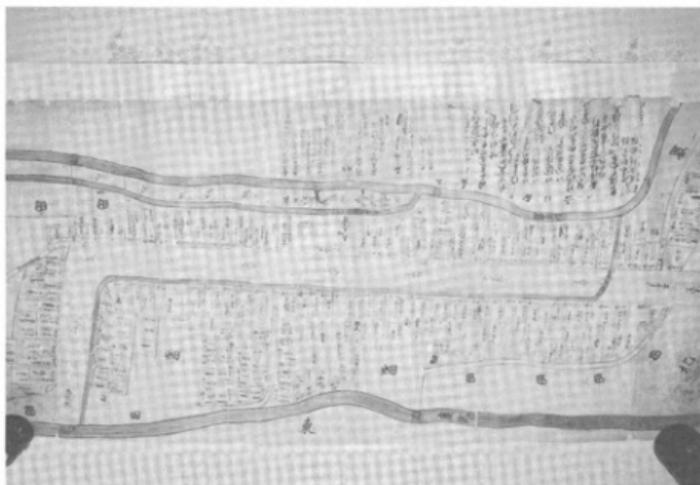
銘が刻まれている。桁行3間、梁間2間、一重、入母屋造、千鳥破風付、屋根銅板葺の建物で南側を向いて建っている。

関東地方の近世社寺建築の例に漏れず、向拝の海老虹梁、手挟などが彫刻化し、向拝の柱、壁面が彫刻で装飾化されている。

しかし、他の拝殿と比較して、縁廻りの装飾、正面棧唐戸の浮彫彫刻、側壁面の詩歌の鬘彫り等の装飾性が高いのは、本殿が慶長の建物であるため、彫刻の装飾が少なく、拝殿をより彫刻で飾ることで本殿の装飾化を強く補うために意図されたものである。

特に、壁面に彫られる詩歌、向拝に飾られる彫刻、脇障子の透彫刻等は写実的で、当時の大工、彫刻師の技術の高さを物語っている。

この建築は、建物の彫刻に意を注ぎ、江戸時代後期の特徴をよく表した好例である。特に、大工名、彫刻師名も判明しているものは貴重であり、地方工匠の雄作で、当時の技術の高さを示す作品として高く評価される。



きょうほしゅうごねん あまがひまちえす
享保十五年天川町絵図

- ・区 分 重要文化財
- ・記号番号 重第65号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市文京町三丁目27-26
群馬県立文書館
- ・所有者 天川史跡保存会
- ・管理者 群馬県立文書館
- ・概 要

この絵図は、享保十五年（1730）四月に天川村名主から町奉行金原助左衛門、成瀬伝助あてにされたもので、天川町の通りにそった町並みがあらわされている絵図である。

この種の町絵図としては市指定の文政四年（1821）前橋町絵図、天川原村分間絵図があるが、一町内の絵図としては、年代も古く、他に例が少ない。通りのほぼ中央に天王寺、牛頭宮があらわされており、道や川も示されている。一丁目から九丁目までの区分があり、各地割には屋敷の広さ、人名等の記載がある。市神を祭っていることから、

かなり早くから市場が開かれていたことがうかがわれる。

なお、これには、寛延元年十月二十一日付、天川町名主五兵衛から大谷軍八、布川城太夫あての名前を書いた張紙が添付されている。

天川村は、東道にそって天川原村の中に成立した街村的市場集落であり、それが城下町の町割に当たって天川新町に発展した。従って、天川村の成立は前橋城下の町の成立よりも古いといえる。

近世にはいつてからの天川村は天王社を中心として町並みを整え、城下から五料を経て江戸に至る道の東端に沿い、後期には城下の町分として、農業の傍ら、主として馬継輸送に当たったと思われる。

この絵図は前橋の町の成立の元になった天川町を示す貴重な記録といえる。保存状態も良好である。

法量	縦	138.5cm
	横	63cm



かんじょうじ ほつとろ
観昌寺の宝塔

- ・区 分 重要文化財
- ・記号番号 重第66号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市西大室町1673 観昌寺
- ・所有者 観昌寺
- ・管理者 観昌寺(住職 中沢 賢淳)
- ・概 要

南北朝期と推定される石製宝塔で、いわゆる赤城塔である。

輝石安山岩でできているが、銘文は刻まれていない。相輪は判然としない。

市指定重要文化財の二宮赤城神社宝塔、山王の宝塔と同じ時期の作である。この時代の特徴をよくあらわしている。

宝塔、多宝塔は「法華経」の説く多宝如来と釈迦如来を安置したものである。見宝塔品に仏が法華を説法するとき、高さ500由旬の七宝塔が出現し、塔中に釈迦、多宝二仏を座せしめたところに基づく塔である。一重の塔で、基礎、塔身、笠、相輪からなり、塔身が壺形のを宝塔と呼び、これに四角な裳階を加えたものを多宝塔と呼んでいる。石造物や建築は墓として作られ、工芸品は舍利、経巻を安置する。

市内でも古い時期の宝塔であり、代表的なものである。

法量	総高	128.0cm
	塔身部高	61.0cm
	くびれ部高	7.5cm
	塔身最大幅	44.0cm
	基礎高	40.0cm

まえはしこうとうがっこう
前橋高等学校の
ラクウショウ

- ・区 分 天然記念物
- ・記号番号 天第1号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市下沖町321-1
前橋高等学校内
- ・所有者 群馬県
- ・管理者 群馬県立前橋高等学校
(校長 由良 智)
- ・概 要

ラクウショウは、北アメリカ大陸産の杉科の落葉性の針葉樹で大木に育つ。葉は線状で、長さ1~1.5cm、枝の両側に羽状に交互につき、秋になると、枯葉が枝ぐるみ鳥の羽のように舞い落ちることから名付けられた。沼地に多く生息するため沼杉ともいう。湿地に生えるため呼吸根を出す。材は固くはないが、耐朽力が強く、まくら木、温室材などに用いられる。

水沼製米所を創設した星野長太郎(勢多郡黒保



根村出身)が、明治26年(1893)、コロンブスアメリカ大陸発見400年記念大博覧会に入賞した生糸の受賞式のために渡米

して、珍しい杉だというので持ち帰り、関係者に配ったうちの1本といわれる。

県内に3本現存が確認されており、その内、中之条高等学校のものが平成4年5月15日付で県指定天然記念物に指定された。

前橋高等学校のものは、明治30年ころ、紅雲町にあった旧前橋中学校の校庭に植えられ、その後営林署の管理下にあったが、昭和57年4月に現在の下沖町の校庭にうつされ、現在に至っている。

移植のため、やや枝をつめているが、樹勢は盛んである。

市内の樹木の中でも巨木であり、伝来の由緒と合わせ貴重である。

法量 樹高 20m 目通り周 3m

樹冠幅 6.5m

樹齢 約100年



にのみやあかぎじんじや ごしんこう
二宮赤城神社の御神幸

- ・区 分 重要無形民俗文化財
- ・記号番号 無民第2号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市二之宮町886
二宮赤城神社
- ・保持者 二宮赤城神社(宮司 中根 平内)
- ・概要

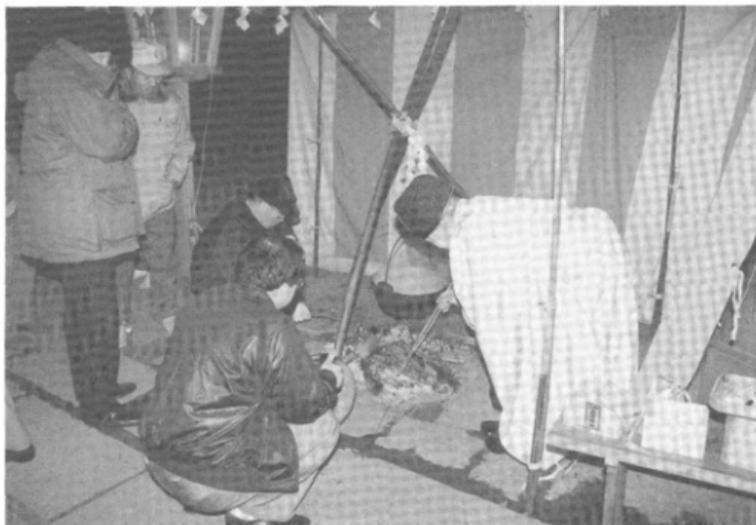
御神幸は、二宮赤城神社と宮城村三夜沢赤城神社の間を御神体が往復する行事である。これは、二宮赤城神社独特の神事であり、毎年、4月と12月の初辰日におこなわれる。

御神体は神鉾(ほこ)であるといい、神衣(かむみそ)は娘神である二宮が父神である三夜沢に衣替えのために持参するのだという伝承がある。

そのため古くは神衣祭(かむみそさい)と呼ばれた祭で、今は御神幸とかオノポリとよばれている。

当日朝、氏子総代が集まって祭典が行われ、道中の無事を祈る。拝殿から御輿を担いで三夜沢に向かう。二宮と三夜沢の間は約12kmあり、以前は徒歩で御神体を乗せた御輿を担いでいった。現在は自動車を使っている。途中大胡町近戸神社と宮城村柏倉の2か所で休憩し、接待をうける。三夜沢の赤城神社に到着して、社殿に御輿を入れる。以後は三夜沢の神官が預かって祭典が行われ、終了後御神体を入れた御輿をもって二宮に帰り神事を行い御神幸が終了する。

この神事は、山宮である三夜沢と里宮である二宮の関係を示す行事であり、古代の信仰を考えるうえで貴重である。



そうじやんじや つつがゆおきずみしき
総社神社の筒粥置炭式

- ・区 分 重要無形民俗文化財
- ・記号番号 無民第3号
- ・指定年月日 平成5年4月16日
- ・所在地 前橋市元総社町2377
 総社神社
- ・保持者 総社神社(宮司 内田 寛一)
- ・概 要

筒粥、置炭式は1月14日真夜中に行われる。筒粥によりその年の各種作物の豊凶を占い、置炭によりその年の各月毎の天候を占う神事である。

拝殿前の石畳の西の炉で粥を煮る。その中に葦がらを二把入れて煮詰めながら、24本の棒状の炭を火にくべる。

粥を煮た鍋をおろし、二把の葦に春、秋と書かれた紙をのせ、供えておく。また、炉からはまっ

赤におきた炭のうちから炉縁の石に12本の炭を並べあおいでます。

社殿に向かって右から1月、2月と炭の消え具合を見、社殿に近い部分が早く黒くなると上旬は雨降り、中央では中旬降り、いつまでも黒くならないと日照りと記録し、○印の中に墨を塗って表す。

葦の束を出し、ひとつひとつ割って粥のしみこみ状態を調べる。春の作物、秋の作物の順に調べ、粥の浸透度により、その量の多い時は豊作とし浸透度の多少により何分作と決める。

置炭、筒粥の記録は巻紙に清書され、15日早朝に拝殿東側に張り出す。この行事は、市内では、総社神社だけで行われている。県内でも例の少ない行事であり、古くからの信仰形態を残している行事として貴重である。

IV 文化財保護事業

1. 保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成4年度において、次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の(総社)二子山古墳と(天川)二子山古墳は、それぞれ地元の関口藤太さんと御供徳雄さんを国有文化財監視人にお願ひし日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の総社地区史跡愛存会と前橋市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定のものが37件、市指定のものが96件あり合計154件の指定文化財があります。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

①指定区分別文化財

区分	種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	旧(旧)重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	6	21
県指定	32	4	0	0	1	0	0	37
市指定	85	16	1	7	7	0	0	96
合計	100	31	2	7	8	6	6	154

②時代区分別文化財

時代別	国指定	県指定	市指定	合計	割合(%)
(天然)	1	0	1	2	1.3
原 始	1	0	0	1	0.7
古 代	14	2	15	31	20.1
中 世	3	19	27	49	31.8
近 世	2	12	34	48	31.2
近 代	0	3	5	8	5.7
民 俗	0	1	14	15	9.7
合計	21	37	96	154	100.0

(平成5年4月16日現在)

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物件名	区分	所在	面積
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町11-13-3	2,407㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	3,000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町2-5-3	400㎡
5	湯井家庭墓地	市指定史跡	紅葉町2-8-15	3,800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,061㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	11,068㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町五科 1501	16,000㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町内堀 2616-1 他	12,283㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204㎡
13	女 堀	国指定史跡	東大室町・二之宮町・黄土井町	16,732㎡
計				87,982㎡

(4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上での情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対処することができました。

各地区の文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

地区	氏名	住所	電話
中 央	福島 守次		
総社・元総社	新木一郎治		
広瀬・山王	関根 辰男		
芳賀・南橋	栗原 秀雄		
城 南	森村伊勢延		

(平成5年4月1日現在)

(6) 国史跡「女堀」の追加指定及び一部解除について(申請)

「女堀」は、赤城山南麓の前橋市上泉町から佐波郡東村国定にかけ、巾20～30m深さ3～4m、総

延長約13kmにわたる中世の巨大用水堀遺構です。市内に残存する本遺構は、前橋駅から北東約4kmの上泉町からその東8kmにわたって断続的にみることができます。この内保存状態のよい5地区(富田、二之宮、飯土井、前工団、東大室)が58年に国指定史跡となっています。

平成4年度は58年度の史跡指定地以外で、特に保存状態のよい地区について追加指定の申請をしました。また、58年度に指定した地域の中に一部形状をとどめていない箇所があったので指定解除の申請をしました。

申請した箇所は次の通りです。

[追加分]

所在地	地目	面積(㎡)	所有者	所在地	地目	面積(㎡)	所有者
前橋市二之宮町228-1	溜池	10085	建設省	前橋市二之宮町245-1	畑	1292のうち743.98	
” 257-1	畑	387		” 257-2	畑	1012のうち80.48	
” 257-3	畑	868のうち126.94		” 258	山林	1123	
” 259-1	宅地	286のうち52.45		” 289-1	宅地	1188.80のうち39.06	
” 290-1	山林	663		” 290-2	畑	887のうち69.72	
” 291	山林	721のうち610.41		” 292	溜池	7543	建設省
” 300	山林	751		” 301	山林	353	
” 302	山林	2362のうち1943.78		” 304-1	宅地	1304.90のうち13.03	
” 305-1	畑	100		” 306	畑	913のうち125.33	
” 321-1	畑	802		” 350-1	宅地	1620.26のうち110.14	
” 353	山林	1460のうち1079.78		前橋市荒子町 638	畑	430	
前橋市荒子町 527-4	畑	378		” 527-5	畑	1279	
” 527-6	畑	730		前橋市飯土井町445-1	田	110	
前橋市飯土井町560-3	雑種地	283		” 560-4	雑種地	132	
” 560-5	雑種地	97		” 560-15	雑種地	343	
” 560-16	畑	272		(無番地)	道路	142.27	建設省
(無番地)	水路	246.91	建設省				

[解除分]

所在地	地目	面積(㎡)	所有者
前橋市荒子町633	田	696	

合計

追加分	31,337.76㎡
解除分	696㎡

2. 整備事業

(1) 総社歴史散歩道整備事業

平成4年度は、昨年度に設置した銅板葺きの屋根つき説明板の一層の充実を図った事を始め、次の事業を実施しました。

① 総社歴史散歩道説明板等設置

史跡めぐり案内板（JR新前橋駅）

総社神社復原図（総社神社）

上野国府復原図（宮鍋神社）

王山古墳復原図（王山公園）

② 総社歴史散歩道 ガイドブック増刷

6つのモデルコースによって史跡文化財を紹介した小冊子を5,500部印刷しました。

③ 総社資料館構想策定委員会

学識経験者による会議を開催し、総社資料館構想を策定しました。

④ 「第3回秋元歴史まつり」への協力（11月21・22日）

（地元自治会中心に開催、20,000人の参加者有）

(2) 龍海院酒井家墓地保存整備事業

平成2年度より3年計画で整備を実施している龍海院酒井家墓地保存整備委員会に4年度も市から補助金を交付して保存整備に協力しました。

本事業は4年度をもって終了し、指定史跡の価値を高めました。

※平成4年度実施内容

① 初代覆屋工事 ② 灯籠の修復

③ 十五代墓石積み替え ④ 初代戒名銘板設置

(3) 八幡山古墳修復工事

前橋市朝倉町にある国指定史跡八幡山古墳の墳丘修復工事を、昨年度に引き続き実施しました。



龍海院酒井家墓地保存整備年次計画

年度 工事	平成2年度	平成3年度	平成4年度
修繕補修工事	・墓地内の樹木の剪定 ・墓地正面の柵木（柵）の修繕 ・墓地人口付近の修繕	・墓地入口部分の修繕	
管理施設工事	・墓地正面に門、墓誌説明板の設置 ・墓地人口付近の修繕 ・墓地人口の門扉の設置	・龍海院参道標柱建立 ・柵（屋根付）の構築	
墓誌広場工事		・砂利舗装（墓地内墓室付近）	
墓地整備工事	・灯籠、水鏡等の移設 ・墓地人口に標柱設置	・石部の確認（移動） ・水鏡/水鏡台（2代・3代）	・墓石覆屋設置（初代） ・墓石積み替え（15代） ・灯籠造替
その他		・碑屋形跡の修復、上層棟の新設	・龍海院酒井家墓地保存整備事業報告書作成



龍海院酒井家墓地保存整備委員会

役職	氏名	住所
会長	大 園 肇之丞	
副会長	石 川 伸 一	
	近 藤 斗 茂 彦	
	大 磯 誠	
	森 本 三 次	
顧問	成 瀬 慧 安	
	岡 本 信 正	
幹事	中 山 和 夫	
	松 島 栄 治	
	岡 部 正	
	高 柳 松 之 進	
	深 町 芳 郎	
(常任幹事)	郡 司 博	
幹事	下 村 善 之 助	
	鈴 木 寛 太 郎	
会計(兼)	郡 司 博	
	週 外 一 雄	

修復箇所は、前方部墳頂と南側で、破損の激しい部分に盛り土・植栽（リュウノヒゲ）を施し、墳丘の保護を計りました。

(4) 文化財補修工事

総社二子山古墳の石室の上にあった板の損傷が激しいため新しい板になおしました。

(5) 標柱、説明板、案内板設置工事

平成4年度は、次に挙げる指定文化財史跡の標柱等の設置を実施しました。今年度から標柱には御影石、説明板にはステンレス板等を用い、耐久性を高めるよう工夫しました。

※案内板の新設……………2基

①図書館保有文化財案内板（市立図書館）

②今井神社古墳説明板

※標柱の新設……………5基

①荒砥富士山古墳……………市指定史跡

②亀塚山古墳……………市指定史跡

③力田遺愛碑……………県指定史跡

④松平藩主画像・結城政勝画像……………市

指定重要文化財

⑤車橋門跡……………市指定史跡

(6) 史跡境界杭設置工事

平成4年度は、国指定史跡女塚の追加指定分を中心に境界杭を設置しました。



3. 普及事業

(1) 第18回前橋市文化財展

・日 時 平成4年7月25日(土)～8月16日(日)

・会 場 前橋市立図書館

・テーマ 「美術工芸の粋・武具甲冑」

4年度の文化財展は、市制百周年を迎えるにあたって、市勢発展の礎となった前橋藩に思いを寄せ、もののふの象徴である武具甲冑に視点をあて、新指定文化財となった二領の甲冑を始め、本市にゆかりのある甲冑を一堂に展示、紹介しました。

上毛新聞にも取り上げられ、期間中多くの見学者が訪れ、好評を博しました。



(2) 文化財めぐりパンフレット増刷

史跡めぐりに役立つパンフレットを市民の皆さんに無償で配布しておりますが、残部些少となったため、昨年度までのパンフレットに新しく指定となった文化財の場所や説明を入れ、5コースを各1,000部ずつ計5,000部増刷しました。

(3) 前二子古墳現地説明会

・期 日 平成4年10月18日(日)

・会 場 前橋市西大室町 前二子古墳

前橋市ではすぐれた自然景観で知られる大室の地に「大室公園」の建設を予定しております。

今年度は国史跡の前二子古墳の範囲確認調査が行われ、石室の様子や墳丘・周堀の様子、埴輪の形や並び方など多くの成果をおさめました。この

成果を市民の皆さんに知っていただくため、現地説明会を開催致しました。

NHKのニュースにも取り上げられたことから、県内外から1,200名を超える多くの見学者が訪れました。



(4) 教材開発事業

学校教育、社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを作成しました。内容は市制施行百周年にちなみ「前橋市の歩み」とし、30コマ作成しました。

(5) 第20回前橋市郷土芸能大会

・日 時 平成4年11月7日(土)午後2時～午後4時30分

・会 場 前橋市民文化会館 小ホール

本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に、前橋市郷土芸能大会が開催されました。

今回第20回記念大会にあたり、県及び市指定無形文化財の郷土芸能を中心に5団体が出演し、盛んに開催されました。

また八木節保存会の方々にもご協力いただきました。



○出演団体

・青柳の紙團	保存会(青柳町)
・春日神社太々神楽	自治会(上佐鳥町)
・叡山講福聚教会和讃	保存会(上佐鳥町)
・八木節	保存会(二之宮町)
・野良犬の獅子舞	保存会(清野町)
・下長磯操箆式三番叟	保存会(下長磯町)

(6) 文化財愛護ポスター作成

文化財愛護の気持ちを培うために、文化財愛護作品コンクール(ポスターと標語)と、その最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施しており、今年度はポスター作成の年として昨年度の最優秀ポスター(大山聡子 元総社中1年)と最優秀標語(桜井理恵子 第六中3年)を使い文化財愛護ポスターを作成しました。ポスターは市内小中学校及び公民館などに配布しました。



(7) 第11回文化財普及講座

本年度は市制百周年を記念し、各戸に配布された「まんが前橋の歴史」の活用を図り、その本を元に前橋の歴史を分かりやすく解説していただきました。

各回とも平均して50名ほどの受講生があり、講師の先生のわかりやすい話に熱心に耳を傾けていました。開催した講座名と講師の先生等は次の通りです。

10月31日 市立図書館

古代の前橋 松島栄治氏

11月7日 市民文化会館 郷土芸能大会鑑賞



11月14日 市立図書館

中世の前橋 唐沢定市氏

11月21日 総社・元総社

秋元歴史まつり見学

11月28日 中央公民館

近世の前橋 阿久津宗二氏

12月5日 市立図書館

近代の前橋 佐藤寅雄氏

⑧ まえばし文化財地図作成

昭和57年度に作成した「まえばし 文化財地図」が好評で残部些少となったため、新指定文化財などを加え2,000部作成しました。

⑨ 史跡・文化財めぐり

本年度も30団体1,500人ももの史跡・文化財巡りの依頼がありました。小学生の社会科見学や老人会や自治会主催の史跡巡り、町村の史跡巡りで前橋のすばらしさを理解していただきました。

⑩ 各種講座への講師派遣

地区公民館で主催する「生涯学習」などの文化財講座に講師として依頼されるなど、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めました。

⑪ 文化財防火デー

昭和24年1月26日に、奈良法隆寺の金堂壁画が消失したことをきっかけに毎年実施されている文化財防火デーは、本年度で39回目を迎えました。

今回も前橋市消防本部と協力をして、次の指定文化財所在地で訓練や査察を行いました。

・ 火災防衛訓練

無量寿寺（前橋市二之宮町）

・ 防火査察

前橋市壘糸記念館、旧アメリカンボード宣教師館、妙安寺、臨江閣本館・別館、神明宮、円満寺、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、小河原武吉宅、日輪寺、善勝寺、上泉郷藏、上野総社神社、光厳寺、大徳寺



⑫ 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、1年間で10件、総点数50点にも及びました。主なものは次の通りです。

・ 墨書土器 長野博物館

・ 天神山古墳遺物出土状況スライド 角川書店

⑬ 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存の為に活動している次の文化財保存団体に、本年度も補助金の助成を行いました。

・ 総社地区史跡愛存会

・ 荒砥史談会

・ 前橋市郷土芸能連絡協議会

⑭ その他

・ 5月10日、前橋市郷土芸能連絡協議会は、グリーンドームで行われた市制施行百周年記念式典で前橋市の発展に寄与した功績に対し、市長より感謝状をいただきました。



・下長磯操翁式三番叟保存会助成記念公演
東洋信託文化財団より、郷土芸能保存活動に対する助成事業の補助をいただきました。助成記念公演を11月15日(日)、永明公民館で行いました。



4. 調査事業

調査事業では、市民からの依頼に基づいて、文化財調査を行いました。



諏訪神社馬場翁の碑文調査

市内城東町に所在する諏訪神社にある碑文の解説を依頼されて実施しました。この解説では、栗原秀雄氏の協力を得ました。

馬場翁碑

馬場翁碑 正七位 神宮 寿題額

羣馬の県上野国東羣馬郡前橋市諏訪といふ鎮りまし須諏訪若御子神社尔仕奉り天教職を可年多留馬場美豆穂といふ翁ありもと八東京府武蔵国西多摩郡調布玉川の水上前留御嶽山能ひと尔し天其山尔鎮りま須大麻山乃豆能社の神官金場主馬正卿のま那子なり天保元年六月二十九日尔生留をさ那名は千代太郎安政二年五月父の職をうけつきて名をも薩摩と可へ明治二年正月更耳美豆穂と改む家能業を子量ぬし尔委年天後身を心耳任せて旅耳出立ある八信濃路の雪ふみ分天ふり耳し跡をたつ年ある八越の海能汐風耳あたり天詞能玉を拾ひつる尔再此上野国尔可へりき天神官尔与支、科盤可しこき神の御心尔やあらむ可し翁王可き時与利心さとく神の道に心深めて老いた留をいさなむ若きを道ひきし可盤教導受留人折あひも曾こ那者留まてなりこたひ其ひとひと記念尔と天石ふみたて、萬代までも尔き魂能与利まさん所とせ者やとてそのよしかけといひ於こせたりいと志たしきひとなれ盤これ者可り八人尔譲らしとて拙き筆をも忘れ天か久なむ明治二十六年五月大教正齋 藤多須久 三日市太夫次郎無民氏書

戦前の遺跡写真

市内上増田町の故薊英雄氏が昭和8年から9年にかけて撮影した写真を調査しました。

写真は次頁に紹介しています。



前二子古墳



八幡山古墳



中二子古墳



宝塔山古墳



後二子古墳



愛宕山古墳

5. 埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の調査をふりかえって

平成4年度は55件の埋蔵文化財調査を実施した。その内訳は発掘調査12件、試掘調査35件、表面調査8件であった。(別表参照)

本年度は、調査原因が工業団地造成、区画整理事業など公共・民間の開発に伴うものがほとんどであったが、唯一史跡整備事業に伴うものとして、昨年度の後二子古墳に引き続いて行われた前二子古墳の範囲確認調査が挙げられる。この調査は、史跡整備のために国指定史跡に発掘調査のメスを入れたもので、①墳丘・周堤の規模・形状の把握、②葺石の検出、③円筒埴輪列の検出、④石室の全容解明など、大室公園史跡整備のため基礎資料を得るという当初の目的を十分達成した。なかでも、二重の堀(外側は規模が小さいので外周溝と命名)の検出や全国的にもめずらしい石室床面の敷石の検出などは特筆されるべきものであろう。

開発に先立つ試掘調査については平成3年度か

ら国、県の補助金を含めて公費で実施している。ちなみに、本年度の補助金対応の試掘は27件であり、このうち8カ所で遺跡が発見され、2件は引き続き発掘調査を実施した。

整理事業としては、芳賀団地遺跡群(昭和48～55年度発掘調査)の整理事業が挙げられるが、今年度実施した各発掘調査についても現地調査の後引き続き報告書刊行に向けて整理作業を実施した。

埋蔵文化財に対する市民の理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚をはかることが目的の遺跡の現地説明会は、本年度は、前二子古墳範囲確認調査地で行われた。一日だけの実施であったが、晴天であったことも手伝って、1,200人以上の見学者でにぎわい、大きな切石の敷石や赤色塗彩の施された石室を見て驚嘆の声を発していた。

以上のとおり、本年度も市内各地の埋蔵文化財発掘調査から、古代史を解明するうえで貴重な資料を多数収集することができた。各遺跡の調査概要について次に述べる。



平成4年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	遺跡コード	地番	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	備考
1	前二子古墳		西大室町2647-4外	1,240	史跡整備	H4.5.25~12.24	範囲確認調査
2	内堀遺跡群V	4E11	西大室町2157-1外	10,000	公園建設	H4.4.27~11.30	
3	元総社明神遺跡XI	4A59	元総社町地内	714	区画整理	H4.5.6~7.22	
4	横橋遺跡群VI	4E18・24	西大室町57-3外	3,000	工業団地造成	H4.5.6~10.7	
5	大屋敷遺跡I	4A60	総社町総社3643外	1,165	区画整理	H4.8.3~11.30	
6	中原遺跡群I・II	4F3	上増田町457外	49,430	工業団地造成	H4.6.9~5.3.10	
7	西久保遺跡	4A63	総社町桜ヶ丘1156-1外	420	分譲住宅建設	H4.8.3~31	
8	引切塚II遺跡	4B3	青柳町引切塚76-18外	220	分譲住宅建設	H4.9.24~10.7	
9	石岡女堀遺跡	4D7	石岡町338地先	60	市道拡幅	H4.11.18~5.1.7	
10	山王廟寺IX遺跡	4A64	総社町総社2547外	100	下水道建設	H4.1.19~31	
11	大室城遺跡	4E28	西大室町1709外	50	水路改良	H5.2.22~26	

平成4年度試掘調査一覧表

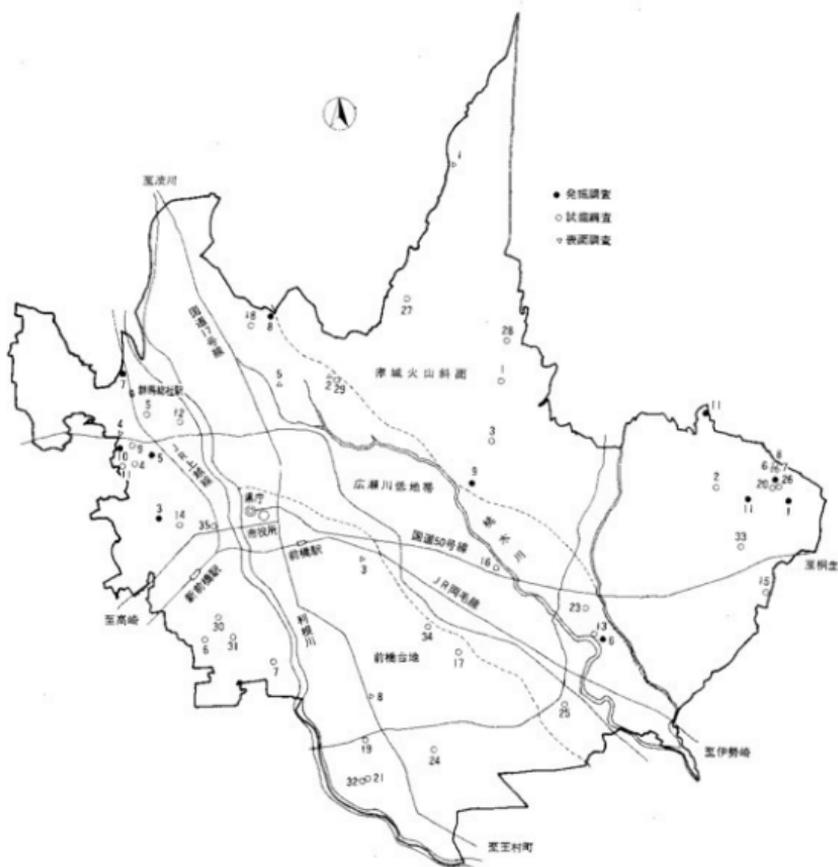
番号	地番	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	結果	備考
1	萩原町206-2	313	個人住宅建築	H4.4.27	無	補助金
2	下大屋町570他	4,056	工場・事務所建設	H4.4.30	無	
3	亀原町字上泉境266-3外	1,135	ガソリンスタンド建設	H4.5.11	無	補助金
4	総社町総社字島家寺廻村北	545	野菜集荷場建設	H4.5.15	無	補助金
5	総社町檜野地内	157	側溝新設	H4.5.16-27	無	
6	前新田町字村西142-2	1,934	宅地分譲	H4.5.18	有	補助金 保存協議済み
7	下新田町字町留61-3	1,950	事務所建設	H4.5.19	無	補助金
8	西大室町字上縄引2018	144	送電用铁塔新設	H4.6.9	無	
9	総社町総社字島家寺廻南門	2,119	土地の売買	H4.6.17	有	補助金 保存協議済み
10	総社町檜ヶ丘1155外	5,238	宅地造成	H4.7.6	有	補助金 発掘調査済み(西久保)
11	総社町総社2531-1外	8,500	農道舗装	H4.7.8・10	無	
12	総社町総社字総人城11386	198	個人専用住宅	H4.8.11	無	補助金
13	筑井町467	500	農業集落排水事業	H4.8.21	無	
14	元総社町地内	477	事務所建設	H4.9.7	無	補助金
15	東大室町230外	4,800	農業集落排水処理施設	H4.9.9	無	
16	上長瀬町300-1外	6,450	事務所建設	H4.10.19	無	補助金
17	広瀬町2-14外	4,723	老人福祉センター	H4.11.12・13	無	
18	白輪寺町地内	2,597	公民館増築	H4.12.2	無	
19	龜里町379-1外	1,289	ドライブインレストラン	H4.12.10	有	補助金 保存協議済み
20	西大室町地内	642	公園道路建設	H5.1.13	無	補助金
21	龜里町地内	1,500	道路建設	H5.1.18	無	補助金
22	西大室町地内	700	排水路整備	H5.1.29	有	補助金 発掘調査済み(大室城)
23	筑井町地内	1,069	未定	H5.2.2	無	補助金
24	宮地町地内	743	学校用地造成	H5.2.5	無	補助金
25	鶴形町地内	2,406	学校用地造成	H5.2.8	無	補助金
26	西大室町地内	2,690	公園施設建設	H5.2.16・17	有	補助金 保存協議中
27	築町地内	7,800	土地改良	H5.2.23	無	補助金 工事立ち会い
28	萩原町424-1他	3,300	事務所建設	H5.2.25	有	補助金 保存協議中
29	上郷井町地内	10,000	公園造成	H5.3.2	無	補助金
30	新田町518-1外	1,548	宅地分譲	H5.3.5	無	補助金
31	新田町字西稻荷境1147外	6,500	分譲住宅建築	H5.3.10	無	補助金
32	龜里町地内	1,751	道路建設	H5.3.12	無	補助金 工事立ち会い
33	西大室町地内	5,500	道路建設	H5.3.16・17	有	補助金 5年度から発掘調査
34	広瀬町1-27-13	403	個人住宅建築	H5.3.19	無	補助金
35	大友町1-1-4他	1,159	事務所建設	H5.3.24	無	補助金

平成4年度表面調査一覧表

番号	地番	調査面積㎡	調査原因	調査年月日	結果	備考
1	築町地内	18,000	公園造成	H5.1.25	無	
2	上郷井町地内	59,915	公園造成	H5.3.24	無	
3	文京町3-121-2	264	アパート建設	H4.4.18	無	
4	高井町1-2-23他	641	店舗併用住宅	H4.4.24	無	
5	青柳町字八幡裏128-1他	16,381	店舗建設	H4.4.28	無	
6	西大室町字上縄引2239	50	送電用铁塔増設	H4.6.9	無	
7	西大室町字上縄引2241-2	210	送電用铁塔増設	H4.6.9	無	
8	龜里町1073-40	3,539	焼却施設建設	H4.7.28	無	

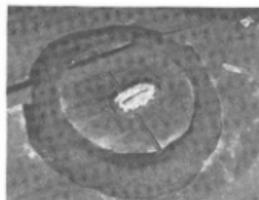
平成4年度埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	前二子古墳	前二子古墳	前橋市教育委員会	5. 3. 31	本年度調査 範囲確認調査
2	内堀遺跡群V	内堀遺跡群	"	5. 3. 31	"
3	引切塚II遺跡	引切塚II遺跡	"	5. 3. 25	"
4	市内遺跡発掘報告書	大友屋敷・村西遺跡外	"	5. 3. 30	"
5	元総社明神遺跡Ⅴ	元総社明神遺跡	埋蔵文化財発掘調査団	5. 3. 20	"
6	大屋敷遺跡I	大屋敷遺跡	"	5. 3. 25	"
7	横俵遺跡群Ⅵ	熊の穴遺跡・上横俵遺跡	"	5. 3. 25	"
8	中原遺跡群I	中原遺跡群	"	5. 3. 25	"
9	西久保遺跡	西久保遺跡	"	5. 3. 25	" 委託



1. 内堀遺跡群 V

(上縄引遺跡・下縄引II遺跡・内堀遺跡)



事業名 大室公園整備事業(公園緑地課)

所在地 前橋市西大室町

調査期間 4年4月27日～4年11月30日

担当者 前原 豊・伊藤 良・戸所慎策

調査面積 9,400㎡

調査の経緯 上記事業に先立ち、公園予定地内の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料にすることを目的とし、公園緑地課より依頼があり発掘調査に至った。昭和62年度に始まり、今年度で6年目になる。

立地 前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。周辺には大室三三子古墳をはじめ、上縄引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

縄文時代 集石1基と埋篋1基を検出した。特に埋篋は、後期北陸系の小形深鉢を埋めたものであった。このほかに、調査区から縄文時代前期から後期までの遺物を含む層を検出した。

弥生・古墳時代 古墳2基と石柵墓1基、竪穴状遺構2基、土坑2基等を検出した。2基の古墳は、どちらも調査区北

西部で検出されたもので、昭和65年度調査で検出された古墳を合わせると上縄引遺跡全体で12基になる。2基のうち1基は、竪穴式石室をもち周堀底付近の覆土にHr-Fr-Aがみられ、出土遺跡より円筒土輪や朝顔形円筒土輪が設置されていた直径11mの円墳であった。もう1基は、今回範囲確認調査が実施できなかったが、Hr-Fr-F上面を古墳構築の基礎層とし、円筒土輪のほか人物土輪が設置されていた直径約25m円墳で、現況の様子等から横穴式石室をもつ古墳と推定される。また、2基の竪穴状遺構は、調査区北東隅で検出された古墳時代前期のもので、同時期の住居跡が100軒近く検出されている(下縄引II遺跡の南端に位置している。(Hr-Fr-F 6世紀中葉後半(石))

平安時代 平安時代の炭層2基を検出した。そのうちの1基は昨年度調査した炭層の南東に位置し、斜面に直交する方向に地面を掘り抜いた全長9.85m、全幅4.52mの炭層で、昨年度調査した炭層と主軸方向をほぼ一致し、形状・煙道部の施設・覆土等から同時期のもので2基で交互に操業し効率よく木炭の生産をしていたものと考えられる。

2. 元総社明神遺跡 XI



事業名 前橋都市計画事業元総社(西部第三明神)地区土地区画整理事業(施工者 前橋市 代表者 藤嶋清多)

所在地 前橋市総社町総社3577-1番地ほか

調査期間 平成4年5月6日～7月22日

担当者 狩野 吉弘・大山 久知

調査面積 714㎡

調査の経緯 昭和57年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第11年次を迎えた。今年度は、既存道路の拡張箇所では昭和63年度に調査された24トレンチの南隣および北側部分の調査を実施した。

立地 前橋市街地の西約2Kmに位置する。標名山東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁辺、牛池川左岸の傾斜地に立地している。本地域は古くから上野国府推定地とされ、周辺には国分寺や山王薬師、総社古墳群が存在する。また、中世以降には善海城・八日市場城も築かれた地である。

縄文時代 石器散点が出土。遺構は検出されなかった。

弥生時代 なし

古墳時代 住居跡6軒が検出された。3軒は古墳時代後期の鬼高式土器を伴うものであった。そのうち1軒は、昭和63年度の24トレンチで調査された住居地の南側にあたるものである。他の3軒については、確認された範囲が狭く、出土遺物も少ないため、明確な時期については確認できなかった。

奈良・平安時代 土坑52基が検出された。そのうち2基は、高台機や底部に回転糸切り痕を持つ土器器坪が出土している。他の50基は出土遺物も少なく、時期については特定できないが、規模・形状等から住居跡・掘建住居跡の柱穴にあたる可能性もある。

中世・近世 溝址3条、井戸址2基が検出された。溝址のうち2条は、善海城もしくは八日市場城に関連する「堀」にあたると思われる。

3. 中原遺跡群 I



事業名 上増田工業団地造成事業（前橋工業団地造成組合）

所在地 前橋市上増田町457番地ほか

調査期間 4年6月9日～4年9月30日

担当者 都所敬尚・新井真典・上野克巳

調査面積 9,200㎡

調査の経緯 平成4年3月31日付けで、前橋工業団地造成組合より上記事業に伴う調査依頼が提出され、同年4月民間委託による試掘調査を経て、公共施設である、道路・水路部分を優先調査した。またこれと並行して民間委託による公共施設部分の調査も行われた。

立地 中原遺跡群は、前橋市街地の東方約8km、上増田町に位置し、西を桃木川、東を荒尾川にはさまれている。地形的には広瀬川低地帯に立地しており、過去幾度もの洪水が発生している。特に818（弘仁9）年6月、赤城朝麓で起こった地震に伴う山崩れに起因する洪水層が厚く堆積し、また一部の地区では噴砂も確認された。

縄文・弥生時代 なし

古墳時代 地山を10～20cm掘り込み、川砂状の砂が入る長さ3m程度の溝が16本平行して確認された。耕作を作る際、

水はけをよくするために、入れられたと推定した。（畑状遺構）

奈良・平安時代 住居址1軒と水田址が出土した。住居址はそのほとんどを、溝によって破壊されたカマドのみをわずかに残すものであった。水田址は、調査区のみほ全面から確認された。水田面には、818年の地震の際の洪水層が厚く堆積し当時の被害の大きさが想像できる。調査区の設定上一面全面が確認されたのはわずかで、ほとんどは一部分のみの出土であった。また形に統一性は無く、地形や水路に即して作ったと思われる。特徴的な水田址としては、円形の畦畔に囲まれた扇状の遺構やその周囲の大畦畔、地面が陥没した水田址が発見された。特に大畦畔は、調査区南端にごく一部確認されただけであるが、何らかの水田の区割りを示すものかもしれない。また陥没した水田址は調査区の北側にあり、深いところでは30～40cmも落ち込んでいる。周辺地域の遺跡でも818年地震による住居址や古墳の周囲が陥没するなどの類似例が報告されているが、水田の陥没は珍しく、今後未調査部分の調査で全貌を解明したい。

4. 中原遺跡群 II



事業名 上増田工業団地造成事業（前橋市工業団地造成組合）

所在地 前橋市上増田町・箕井町・今井町地内

調査期間 平成4年6月3日～平成5年3月10日

担当者 園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）萩野博巳（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 40,264㎡

調査の経緯 平成3年度（平成3年12月12日～平成4年3月16日）に試掘調査を実施したところ、古墳時代～平安時代の遺構を検出したことから、その結果をもとに工業団地造成組合・市教委との間で協議・調整を重ね、平成4年度調査事業として、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立合指導のもとに、スナガ環境測設（株）が工場敷地及び道路部分について調査を実施した。

立地 中原遺跡群は、前橋市街地の東方約8kmに位置し、北に赤城山麓が広がり、東に荒尾川、西に桃木川等に挟まれた旧利根川の流路で広瀬川低地帯と前橋台地への移行部に当たる。標高は約80

m前後で北から南に緩やかに傾斜する地形を呈する。市教委が実施した中原遺跡群Iは南に位置する。

古墳時代 住居址7軒と畑状遺構等を検出した。その内の住居址2軒と畑状遺構は、平安時代水田面下（2面調査）より検出した。遺物は古墳時代前期～中期にかけての高坏・器台・壺・甕・手すくね土器・石製品など検出している。

奈良・平安時代 住居址2軒と818年の地震に起因する洪水堆積物で埋まった水田址、日軽石下の畝状遺構、水路、溝等を検出している。遺物は、羽釜、瓿など検出している。

中近世 平安時代の水田面を掘り込んでいる集石遺構や井戸址4基、土坑群、水路・溝、道路等を検出した。遺物は、宋銭、鉄永通宝、煙管、湯呑み（磁器）、木杭などを検出している。また、試掘調査時に五輪塔（空法輪・火輪）も確認されている。

5. 大屋敷遺跡 I



事業名 前橋市大屋敷地区土地面整理事業
所在地 前橋市総社町大字総社1937番地ほか
調査期間 平成4年8月3日～11月30日
担当者 狩野吉弘・大山知久
調査面積 1,165㎡

調査の経緯 平成4年3月4日、上記事業対象予定地を市都市計画課の依頼で試掘調査した結果平安時代の住居址3軒が良好な形で検出されたため、開発事業の実施に際しては、これに先立つ本発掘調査が必要である旨回答した。その後、当地区の土地面整理を目的とした前橋市大屋敷地区土地面整理組合が発足、組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で5年間にわたる発掘調査に関する覚書を締結、その後7月29日には平成4年度の発掘調査委託契約を締結し本調査を実施することとなった。

立地 本遺跡の立地は極名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇頂部より流下する河川群のひとつ、八幡川左岸域の標高約123mの微高地上にある。遺跡地の南側には樺東村に源を発する八幡川が南東方向に流れ、東側には江戸時代初期、総社藩主秋元長朝により開削された天狗岩用水が南流し、両川は遺跡地の南東端で合流し利根川と平行する形でさらに流下していく。遺跡地の両川と交する部分は比高約5～6mほどの段丘崖を呈し、

段丘上の遺跡地は高燥化した台地が広がり、主に畑作地として利用されている。
縄文時代 遺構は確認できなかったが、包含層中から総数417点の縄文土器が出土している。内容的には中期前半の阿玉台式土器から後期初頭の称名寺Ⅰ式土器までの3形式に分類され、中でも中期後半の加曾利E式（主にE4）土器が総点数の98%を占める。また石器は打製石斧が大半を占めている。

古墳時代 住居址15軒および土坑1基を確認できた。住居址の内訳は石田川Ⅱ式土器を伴う4世紀後半の住居址1軒、6世紀前半の鬼高Ⅰ式土器を伴う住居址が7軒、6世紀半ば過ぎから7世紀前半の鬼高Ⅱ・Ⅲ期にあたるものが7軒となっている。これらのうち鬼高Ⅰ期のH-12号住居址からは、三ツ寺Ⅰ遺跡に類するもつ口径30.6cmの大型高坪（「三ツ寺型高坪」と命名）が出土しており、本遺跡地周辺に三ツ寺系高坪とほぼ同時期に存在した住居址を想定することもできる。

奈良・平安時代 8世紀代の住居址5軒、9世紀代の住居址7軒の合計12軒を確認できた。その他、7世紀後期に建立された山王院寺（放光寺）創建時に建立される瓦類がまとまって検出されたに数遺構も注目し得る。

中世 天井部分を残して内部をドーム状に掘り抜いた地下土坑1基、掘立柱建物址1棟、井戸址1基、溝址2条、土坑37基、落ち込み1基が確認された。



6. 前二子古墳



事業名 大室公園史跡整備事業
所在地 前橋市西大室町2657-4ほか
調査期間 4年5月25日～4年12月24日
担当者 前原 豊・伊藤 良・戸所慎策
調査面積 1,239.7㎡（範囲確認調査）

調査の経緯 本市では、大室三子古墳が所在する大室地区に約37haの総合公園建設を計画した。公園用地内には史跡が存在するため、史跡整備が不可欠となり、史跡整備委員会が組織され、「史跡整備基本構想」が策定された。今回の範囲確認調査はこの構想に基づき、史跡の保護・活用・研究用の資料を収集し、史跡整備の基礎資料を得ることを目的としている。なお、昨年度の後二子古墳に引き続き実施したもので、大室公園史跡整備範囲確認調査の第2次にあたる。

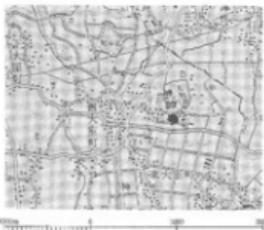
立地 市の東端、赤城山南麓の丘陵性台地に位置し、北に粕川村、東に赤堀町が隣接する。公園内には、大室三子古墳のほか古墳時代の葦原館跡の柵木遺跡も存在し、家形埴輪で知られる赤堀茶臼山古墳も近在する。

調査結果 調査の結果、墳丘の周囲に周堀・外堤・外周溝を持つ2段築成の前方後円墳であることが判明した。馬蹄形

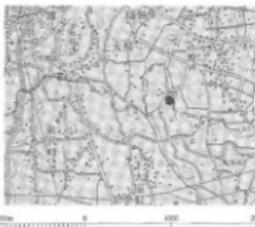
の周囲施設に囲まれた墳丘は、主軸を東西（N-70°-E）にとり、外堤・平坦面・墳頂部に総輪を有し、その数は1,340本と推定できる。古墳の大きさは外周溝で計測した場合、全長148mである。墳丘での規模は、全長93.7m・前方部幅64.8m・高さ13.6mである。下段の墳丘は、地山削り出しの上に盛土によって構築され、上段は盛土の後に全面にわたって葺石が並べられる。石室は下段斜面部に開口する両側型横穴式石室で、扉面に凝灰岩の切石が敷かれて、ほぼ内面全体にベンガラによる赤色塗彩がなされる特色を有する。また、敷石のほかにも横門・玄門・扉石・柵石という特異な構造を有し、最大長13.9mの狭長な初期横穴式石室の特徴を有する。

出土遺物は、小倭刀筒形器台を始めとする明治11年出土の一括遺物が古くから著名であるが、今回の調査でも200個近い装身具と馬具・武器・農具が多数発見された。埴輪は円筒埴輪・朝顔形埴輪をはじめ唐・人物・馬・壺・靴・大刀などの形象埴輪も出土している。

築造時期は、基礎層のテフラ（Hr-F A）や出土遺物から6世紀前半まで初頭に近い時期が考えられる。



7. 横俵遺跡群 VI



事業名 荒廃工業団地造成事業（前橋工業団地造成組合）
所在地 前橋市西大室町57-3番地ほか
調査期間 4年5月6日～4年6月8日
 4年10月5日～4年10月7日
担当者 都所敬尚・新井真典・上野克巳
調査面積 3,000㎡

調査の経緯 昭和63年度より上記事業に伴う調査依頼が提出され、今年度は最終調査年度である5年次を迎えた。調査範囲は熊の穴II遺跡、上横俵遺跡の拡張部分にあたる移転旧住宅下及びその周辺部分である。

立地 横俵遺跡群は、前橋市街地の東方約9kmに位置する。北は大胡町、東は粕川村に接し、地形的には赤城山麓に広がるなだらかな斜面上に立地している。その中でも、多回の調査区は赤城山の形成過程で作られた「流れ山」と呼ばれる丘陵の縁辺部にある。

旧石器時代 なし。

縄文時代 過年度の調査で丘陵の斜面上の遺構及び遺物包含層が確認されているため、数点の流れ込みと思われる遺物

が出土したが、遺構は検出されなかった。
弥生時代 なし

古墳時代 本遺跡群内に存在する上横俵古墳群は昨年度までの調査で約50基の古墳が確認されている。今年度は一部未調査だった2基、さらに新たに5基の古墳を確認した。どの古墳も開墾や近年の耕作等による破壊が著しかったが、M-16号墳の石室から長さ約80cmの竈刀1振りが出土した。また、本古墳群のうち北側に位置する支群である熊の穴古墳群の各古墳は、その使用石材及び古墳の構築状態等から、その所産時期は7世紀後半代のもと考えられる。

奈良・平安時代 本遺跡群内での本時代の遺構の検出例は少なく、各遺跡に多くても3軒の住居址の集まりが点在するに過ぎない。今年度は旧住宅下から住居址3軒を検出した。どれも東壁に礎を持つタイプのもので形状は長方形を呈する。また、覆土の最上部には1108（天仁元）年に降下したAs-B（浅間山総源）の純層が認められた。これらの住居址は熊の穴古墳群から比較的近距离に位置しているため、その性格については興味深いものがある。

8. 西久保遺跡



事業名 民間開発（分譲住宅建設）
所在地 前橋市総社町桜が丘1,156外11番
調査期間 平成4年8月3日～平成5年8月31日
担当者 新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）金子正人（スナガ環境測設株式会社）
調査面積 420㎡

調査の経緯 住友林業株式会社の分譲住宅建設に先がけ、平成3年8月23日に試掘調査を実施したところ平安時代の住居跡等を検出した。その後事業者と市教委との間で協議調整を重ねたが、隣接する他町を含む開発行為であったため調整に長期日を要することとなった。その後開発計画の変更に伴い、平成4年7月6日に再度試掘調査を実施し、前橋市分についてのみ、市教委の指導のもとに前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査を担当しスナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施した。

現在調査を平成4年8月3日から同31日まで行ない、整理作業を同9月1日から平成5年3月25日まで行なった。

立地 申請地は前橋市の北西端部、JR群馬総社駅から北へ500mの地点である。

横山山東南麓の火山斜面が前橋台地に移行する部分にあたり、牛王頭川の左岸に位置する。国府城・国分寺をはじめ、周辺部は総社古墳群・吉岡町南古墳群等が本遺跡地を囲むように存在し、一帯が縄文時代から近世初頭にかけての遺跡の密集地となっている。

縄文時代 掘之内I式土器を多く出土する住居址1軒。土坑3基、溝址1条、集石（敷石状）遺構。

平安時代 住居址5軒、土坑12基、出土遺物 縄文土器片 1,262点。石205点、平安時代土師器片、1,175点、須恵器片332点、石13点、鉄器8点。

9. 引切塚II遺跡



事業名 民間開発（分譲住宅建設）
所在地 前橋市青柳町字引切塚876-1
 9外
調査期間 平成4年9月24日～同10月7日
担当者 園部守央・井野誠一・戸所慎策・新井真典・上野克巳・新保一美（市教委文化財保護課）
調査面積 220㎡

調査の経緯 市川建設株式会社より、同社が既に開発し、引切塚遺跡（昭和60年度）として調査が行なわれた地区の南に接する部分の開発計画が提示され、平成2年8月8日に試掘調査を実施したところ古墳時代の住居跡を検出した。その後平成4年9月1日に事業者から開発着手の申し出があり、市教委運営で発掘調査を実施することとなった。調査は現物貸与で行なわれ、平成4年9月24日から同10月7日までの実質8日間であった。

立地 遺跡の所在地は本市の北端部にあたり、JR前橋駅から北へ約5.2kmの通称石井農道が大正用水にかかる直前の、赤城火山斜面に位置し、同用水の北側は富士見村となる。

調査区での地質は、赤城白川の泥氾原の椽柏を呈しており、引切塚遺跡と同一である。

古墳時代 一边が5.5mを超える大型の方形住居跡1軒が検出され、出土遺物等から判断して、古墳時代後期にあたるものと考えられる。

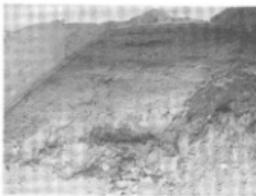
また住居跡の一部であるが、隅丸形の住居が検出され、床面に近い位置でレンズ状に堆積した浅間山起因のC軽石純層を認めている。出土遺物は床面に近いところから、樽式と比定される甕の体部を検出しているが、他の土器の出土を見ないため確証が持てないが、引切塚遺跡を急いで、最も古い時期の住居跡であると思われる。

他に整穴状の台形プランを持つ遺構が2基検出されたが、遺物の出土量も少なく、その用途・性格については不明である。

出土遺物 大型住居跡から出土した遺物は鬼高のⅢ期所産と考えられ、他の遺構からは資料とするに足るものは得られなかった。

今回調査された遺構は、規模・形状・走行等から見て、引切塚遺跡と同一集落を形成するものと結論を得た。

10. 石関女堀遺跡



事業名 道路改良工事
所在地 前橋市石関町338番地先
調査期間 平成4年11月18日～1月7日
担当者 井野誠一・新保一美（前橋市教育委員会文化財保護課）
調査面積 60㎡

調査の経緯 本遺跡は平安時代末期の用水遺構「女堀」の石関町内に所在する。「女堀」は地点を本遺跡周辺、終点を佐波郡東村にもつ遺跡である。

平成4年10月26日に土木課より、本遺跡地での土木工事の連絡が入り、協議を行なった。現道の改良であること、安全対策上必要であることから調査を実施することとなった。同年11月2日に調査依頼。

事前にはボーリング調査を実施したところ、現在の道路敷は北側の女堀の土堤を以前の土地改良施行時にくずして築いたものと判明した。

工事が女堀の土堤に及ばないことが判明したので、調査は女堀の範囲確認調査として実施した。

立地 調査地は、桃木川右岸で赤城南麓の舌状台地の南端にあたる。台地先端近くに女堀が掘り込まれている。

女堀の取入口は不明であるが、石関町の名称は女堀の取入口に由来するとも言われる。また、伝承によれば上電の線路をこえ、藤沢川近くにまで達しているとも言われる。

遺構及び遺物 範囲確認調査によると、女堀土堤は道路北側の宅地、畑にほぼ重なる。道と畑の比高差も約1mあり、傾斜が高い。

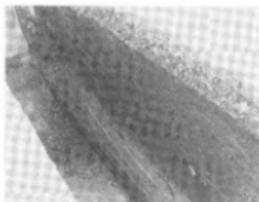
地層断面よりの確認によると、現道路は土堤の肩部を段状に削平したもので、その土を南に盛土をして道路敷としている。

横断部分北端より南へ約2mの地点で落ちこみ、堀の肩になっている。南端は現用水でさらに削平されている。

南側の盛土は比較的新しいもので、近年の造成によるものである。

遺物は検出されなかった。

11. 山王廃寺Ⅹ遺跡調査



事業名 都市計画下水道事業、下水道築造工事

所在地 前橋市総社町総社2545、2547

調査期間 平成5年1月19日～1月31日

担当者 井野誠一・新保一美（前橋市教育委員会文化財保護課）

調査面積 100㎡

調査の経緯 本遺跡は、総社町の山王廃寺の南西部にあたる。付近からは10～11世紀ともみられる仏教用具も出土している。

平成4年11月26日に下水道局下水道建設課より工事の連絡をうけ、協議も実施する。一部はすでに調査済みであること、幹線であり変更が困難であることから調査を実施することとなる。同年12月17日に調査依頼が提出される。

調査は掘道下の工事という性格上工事施行にあわせ平成5年1月19日から1月31日までの期間で延べ5日間を要して実施された。

立地 本遺跡は想定山王廃寺域の南西部にあたる。平成3年8月に行なわれた山王廃寺Ⅸ遺跡の調査によれば、塔心礎の西側には2本の、区画するとみられる

溝が検出されており、その西には女壇と呼ばれる溝も南北に走行している。

山王廃寺想定域については西側の範囲は山王廃寺Ⅸ遺跡の調査結果によりほぼ確定されたが（報告書未刊）、南限については明らかではない。現集落域の南を寺域と考え想定域としている。

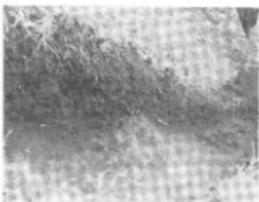
遺構及び遺物 調査の結果、想定域内にあたるところで遺構は検出されなかった。若干土層が軟かい程度であった。塔心礎西側ではローム層が表土下ですでに検出されるが、本遺跡地点では現地表下4mで検出され、旧地形が変化の大きいことが認められた。

また、想定域のやや南に東西に走る溝が検出された。地表下3mで検出され、巾2mで、深さ1mを測る。溝の状況からみると山王廃寺の溝と考えるのは少し困難であるともみられる。溝内よりは遺物は検出されなかった。

今後、上下水道工事が周辺で予定されており、その工事に先立つ調査で明らかになる可能性をもつ。



12. 大室城遺跡



事業名 水路改良工事

所在地 前橋市西大室町1709番地

調査期間 平成5年2月22日～26日

担当者 井野誠一・新保一美（前橋市教育委員会文化財保護課）

調査面積 50㎡

調査の経緯 本遺跡は中世の城跡である大室城の堀跡にあたる。城跡にはその後大室神社や公民館ができており、堀も一部は埋められているが、比較的旧状を残している。

平成5年1月20日に土地改良課より工事についての連絡があり、協議の結果、堀の状況について確認調査を行ない、遺構と認められる部分については調査を実施すること、工事にあたっては景観を生かしたものとすることが決まった。

同年1月29日に確認調査を実施したところ、堀跡の西側北側に堀跡が認められた。他はすでに崩落で旧状をとどめていなかった。この旧状の認められた地点について、同年2月22日から26日まで調査を実施した。

立地 調査地は大室城の南西部の堀にあたる。現状では東側のグラウンドと公民

館をめぐる堀が残されているが、大室神社社殿をもめくっていたようである。

平成3年度に社殿東側に下水道工事が行なわれたが、工事の掘削の範囲は全て埋転の土であり堀跡と認められた。この工事の際には旧石橋の位置に西側の基礎とみられるローム層が若干認められたのみであった。

また、南側の築造より前橋線工事の際に、神社から南に下がる道の下に前述の堀の土が認められ、飛土の舗装の上面のレベルでおわっていることから、この南に下がる道は堀を掘削して作られたことが認められた。この堀は本遺跡の堀とも交わっていると思われる。

遺構及び遺物 堀跡の調査によると、堀の北側には90cmほどの盛土があり、その下の暗褐色土は地山とみられる。堀はローム層を切りこんでいるが、堀の外側1.2～2mの地点は若干厚状になりさらに下がっている。底面は確認できなかったが、比高差は7m近いものと考えられる。遺物は検出されなかった。

なお、城の北及び東側の堀については旧状を生かしての工事及び整備構想が行なわれている。



13. 芳賀団地遺跡



事業名 芳賀団地遺跡整理、遺跡台帳整備事業

整理期間 平成4年4月1日～平成5年3月31日

担当者 井野誠一・新保一美（前橋市教育委員会文化財保護課）

整理の経緯

芳賀団地遺跡整理事業 昭和48年度から55年度に調査が実施された芳賀団地遺跡の報告書刊行にむけての整理作業を実施している。

平成4年度は平成5年度刊行予定の第5巻芳賀北部団地遺跡Ⅰ（古墳、奈良、平安編）の整理作業を実施した。

芳賀北部団地遺跡は昭和48・49年度に調査が実施された遺跡で、縄文時代の住居跡31軒、古墳～平安時代の住居跡234軒等が検出されている。

遺物は総量で502箱に及ぶ。

平成4年度は、古墳～平安時代の住居跡・独立柱建物跡・製鉄址・土坑・溝にかかれる遺物の復元・実測・トレースと遺構の原稿化を行なった。

平成5年度はその図版化と、遺物の写真撮影を実施し、刊行を行ないたい。

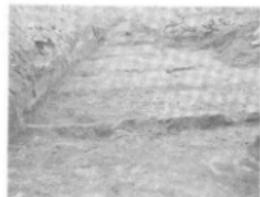
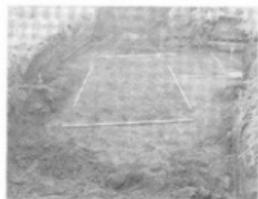
台帳整備事業 平成2年度より実施。前橋市で調査した遺跡について台帳に整理している。また、それに伴い資料の欠けている市内の古墳等の遺跡の測量を実施している。4年度は経塚古墳の測量を実施した。5年度は亀塚山古墳の測量を実施する予定である。

今後台帳の整理にあわせて、未整理の遺物の整理・復元と図面類・写真等の整理を実施してゆく予定である。

また、本年度より、発掘調査の結果について、パンフレットにまとめ市民に配布することになり、平成3年度調査分について、概要をまとめ刊行配布を行なった。

これは本年度以降も続く予定である。

14. 市内遺跡



事業名 埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）

所在地 前橋市内27カ所

調査期間 平成4年4月13日～平成5年3月31日

担当者 井野誠一・新保一美（前橋市教育委員会文化財保護課）

調査面積 3,807㎡

調査の経緯と状況 平成4年度は、27件の確認調査が実施された。近年の傾向として、市内の南部での開発が多くみられ、4年度も南部での確認調査が多くみられた。

現在市南部は平坦な水田が広がっているが、確認調査、発掘調査の結果によれば、以前は変化に富む地形で、現集落下にあたる微高地に集落の可能性があり、低地に水田が認められる。

平成4年度は確認調査地点のうち8ヶ所が遺跡と認められた。

8遺跡のうち3遺跡は保存協議を締結し、現状保存となり、2遺跡は協議中、3遺跡は調査実施となった。

保存 前箱田町の村西遺跡は平安時代の水田跡が検出された。宅地造成。

総社町の堀南遺跡。北からのびる集落の南端。奈良～平安の集落。宅地造成。

亀里町の観音遺跡。平安時代の水田跡。ドライブイン。

協議中 西大室町の内堀遺跡。縄文時代の土坑が検出された。公園施設建設。荻窪町の庚申塚遺跡。奈良～平安時代の住居跡が検出された。工場建設。

調査実施 総社町の西久保遺跡。奈良～平安時代の住居跡が検出された。平成4年度調査。宅地造成。

西大室町の大室城遺跡。旧大室城の土堤の一部が検出された。平成4年度調査。水路改修。

西大室町の地田薬Ⅲ遺跡。古墳時代の住居跡。平成5年度に調査予定。道路建設。

平成5年度は約20件の確認調査を予定している。4年度は個人住宅建設に伴う調査はなかったが、5年度は現在協議中のものがあり、実施の予定。

6 大室公園史跡整備事業

(1) 大室公園史跡整備委員会

平成4年度は、大室公園史跡整備委員会を1回開催すると共に、委員会の下でより専門的、実務的な業務を担当する古墳整備部会、(前二子古墳範囲確認調査)民家変遷部会(民家変遷実施設計)資料館部会(資料館建設基本構想資料収集)を各3回開催し、事業を進めて来ました。

各部会の詳しい事業内容については別記しましたが、各部会、各部長会、委員会等の事業進捗にあわせて、事務局の打ち合わせを16回開きました。大室公園史跡整備委員会の経緯

- ・平成5.2…平成4年度第1回委員会開催
(通算第6回目)
- ・平成5.3…文化庁調査官現地指導来訪

(2) 古墳整備部会

史跡整備のための基礎資料である古墳の規模、形状等を明らかにするため、国指定史跡前二子古墳の範囲確認調査を実施しました。文化庁の許可を得た後、幅2mのトレンチ調査、墳丘、石室調査等を約4カ月間おこないました。

調査の結果

- ・墳丘は上下2段で構成され、上段の斜面に墓石がほどこされていること
- ・周堀の他に外堤と区画溝が存在していること
- ・石室の床面には全国的にも珍しい赤色塗彩がほどこされていること

等が判明しました。

- ・平成4.8…平成4年度第1回部会開催
- ・平成4.9…大室史跡整備委員会副委員長白石太一郎(国立歴史民俗博物館教授)現地指導
- ・平成4.10…平成4年度第2回部会開催
- ・平成4.10…前二子古墳調査現地説明会開催
- ・平成5.2…平成4年度第3回部会開催



平成4年度大室公園史跡整備委員会組織
○ 史跡整備委員会

	氏名	職名
指導	加藤 允彦	文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官
顧問	岡本 信正	前橋市教育委員会教育長
委員	近藤 義雄	前橋市文化財調査委員
	白石 太一郎	国立歴史民俗博物館教授
	梅沢 重昭	群馬大学教授
	伊東 功	群馬県都市施設課長
	上月 正博	群馬県教育委員会文化財保護課長
	松島 栄治	古墳整備部会部会長
	福田 紀雄	民家変遷部会部会長
	阿久津宗二	資料館部会部会長
	大嶋 昭一	前橋市公園緑地専門委員
	立川 宏二	前橋市総務部長
稲田 俊夫	前橋市公園緑地部長	
有坂 淳	前橋市教育委員会管理部長	
渡辺 勝利	前橋市総務部財政課長	
浅見 亘	前橋市教育委員会総務課長	

○古墳整備部会

部会長	松島 栄治	前橋市文化調査委員
幹事	井上 唯雄	勢多郡東村立果小学校長
	松本 浩一	大胡町立大胡小学校長
	秋池 武	群馬県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財第二係長
	右島 和夫	群馬県埋蔵文化財調査センター 指導主事
	細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課長
	高橋 正男	前橋市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係長

◎ 民家変遷部会

部会長	福田 紀雄	前橋市立新田小学校校長
幹事	中沢 右吾	前・前橋市文化財調査委員
	池田 修	群馬県立前橋工業高等学校教諭
	三浦茂三郎	群馬県教育委員会文化財保護課主任
	渡辺 正義	前橋市総務部人事課付副主幹
	高橋 賢靖	前橋市教育委員会文化財保護課 文化財保護係長

○ 資料館部会

部会長	阿久津宗二	前群馬県立歴史博物館副館長
幹事	丸山 知良	前橋市文化財調査委員
	外山 和夫	群馬県教育委員会文化振興室 課長補佐
	石川正之助	群馬県埋蔵文化財調査センター 主任専門員
	相澤 貞順	前橋市立女子高等学校教諭
	木下 正夫	前橋市建築部建築課長
	町田 重雄	前橋市教育委員会文化財保護課長

○ 事務局

町田 重雄	前橋市教育委員会文化財保護課長
細野 茂夫	前橋市公園緑地部公園緑地課長
青柳 和彦	前橋市公園緑地課建設第二係長
高橋 賢靖	前橋市教育委員会文化財保護係長
高橋 正男	前橋市教育委員会文化財保護係長
須田 哲夫	前橋市公園緑地課主任
丸山 直人	前橋市公園緑地課主任
駒倉 秀一	前教委文化財保護課主査
関口 孝	前教委文化財保護課主任
園部 守央	前教委文化財保護課主任
井野 修二	前教委文化財保護課主任
前原 豊	前教委文化財保護課主任
井上 敬夫	前教委文化財保護課主任
伊藤 良	前教委文化財保護課主任
戸所 慎策	前教委文化財保護課主任

(3) 民家変遷部会

昨年度委託作成された民家変遷基本設計を更に進め、民家変遷実施設計を委託作成しました。この中で、現在解体保存されている市指定重要文化財「旧関根家住宅」の部材調査も併せて実施しました。

- ・平4. 5…平成4年度第1回部会開催
- ・平4. 12…平成4年度第2回部会開催
- ・平5. 1…平成4年度第3回部会開催
- ・平5. 3…民家変遷実施設計および民家部材調査完成

(4) 資料館部会

資料館建設のための独自の基本構想策定を目指し、関連資料の収集及び調査研究を行いました。また部会は4回実施し、そのうちの第2回目は先進地博物館の調査研究視察を行いました。

- ・平4. 5…平成4年度第1回部会開催
- ・平4. 6…平成4年度第2回部会調査研究視察（栃木）
- ・平4. 12…平成4年度第3回部会開催
- ・平5. 1…平成4年度第4回部会開催

7. 上泉郷蔵保存整備事業



1 事業の経過

上泉郷蔵は、穀物貯蓄のため前橋藩の勤めによって、寛政8年（1796）に建てられた。群馬県内には多くみられた郷蔵も今は4棟しかない。これらのうち上泉郷蔵は最も古く、建物の創建や用途および維持管理の状況が記録された古文書も遺ることから、昭和26年6月19日付で群馬県の史跡指定を受けた。

その後度々修理が施されてきたが、建物全体が経年による老朽化が進み、近年では特に不同沈下と傾斜が著しくなり、さらには平成2年8月10日の台風による外壁の崩落等の被害を受け、これ以上破損を大きくしないためにも根本修理の必要に迫られた。そこで地元では修理計画をたて、実施に向けて群馬県並びに前橋市と協議を重ねた結果、平成3年度から3か年計画で解体修理を実施することとなった。

修理事業は群馬県、前橋市の補助を受け、平成3年10月30日に着工した。

事業の運営については群馬県文化財保護条例、群馬県補助金等に係わる予算の執行の適正化に関する関係規則および前橋文化財保護条例、その他関係法規を遵守し、適格な運用を図った。

工事の設計監理は財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都）に委託した。同協会は各種調査および工事期間中に工事監督者を派遣して業務遂行にあたった。

施工は各年度毎に一括請負工事として、不二建

設株式会社が実務を担当した。

施工工程 事業期間22か月、内工事期間20か月とし平成5年9月30日事業を完了した。

2 工事関係者

群馬県教育委員会
前橋市教育委員会
上泉町自治会
上泉郷蔵保存整備委員会
財団法人文化財建造物保存技術協会
不二建設株式会社

3 事業費

(1) 収入精算額	
群馬県補助額	34,711,000円
前橋市補助額	11,405,000円
管理者負担額	3,472,000円
合 計	49,588,000円
(2) 支出精算額	
総事業費	49,588,000円
修理工事費	44,168,000円
本工事費	40,531,689円
仮設工事費	5,288,600円
解体工事費	1,681,012円
基礎工事費	1,770,310円
木工事費	12,340,201円
屋根工事費	4,139,090円
左官工事費	8,296,315円
雑工事費	929,600円
諸経費	6,086,561円
共通工事費	2,350,000円
仮設工事費	1,998,800円
諸経費	351,200円
消費税	1,286,451円
設計料及び監理料	5,419,860円
委託料	5,262,000円
設計管理費	3,662,000円
委託費（駐在費、記録保存費）	1,600,000円
消費税	157,860円

あ と が き

文化財保護行政は、心の豊かさを求めるために行われる一面もっています。今年度のように不況で人の心がせわしくなってくる時こそゆとりを持つことが必要になってくるのではないのでしょうか。

日先の成果を追い求めるのではなく、100年後200年後の前橋市民の文化性を高める施策を今実行してゆかなければならないと考えています。

文化財保護の活動は地味であっても前橋市民の文化向上の一助となるべく、職員が一団となって業務についております。

この報告書を市民の皆様がご覧になって、いろんな感想をお持ちだと思います。ぜひご意見をお寄せください。

そういった意見も私たちにとっては、励みであり激励であり、反省材料としてより市民の立場にたった行政を行う力と考えております。

平成5年12月

文化財保護課長

町 田 重 雄

平成4年度

前橋市文化財調査委員

近 藤 義 雄
丸 山 知 良
松 島 榮 治
阿久津 宗 二
梅 沢 重 昭

文化財保護課職員

文化財保護課長 町 田 重 雄
文化財保護係長 高 橋 賢 一
埋蔵文化財係長 高 橋 正 秀
主査 高 駒 倉 口 孝 央
主任 関 野 守 誠
" 井 野 修
" 井 野 二 豊
" 井 原 敏 夫
" 井 上 良 策
" 伊 藤 慎 弘
" 戸 所 野 吉 真 敬
" 狩 野 山 知 久
" 新 井 所 山 尚 久
" 都 大 上 野 克 一
主事 大 上 野 保
" 新 野 保
嘱託員 新 野 保

平成4年度文化財調査報告書第23集

平成5年12月15日印刷

平成5年12月20日発行

発 行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市上泉町664-4

印 刷 上毎印刷工業株式会社

前橋市天川原町305-1

